

めぐらせ、胴上部には連弧文を入れる。同巧の2例を割愛した。5は口縁直下に交互刺突文列をもつ地文縄文の中型深鉢で、2本組み沈線で連弧文を加える。6は地文条線で4と同巧ながらラフな連弧文を入れる。7は口縁部を欠くが、地文条線の深鉢で、胴上半部に連弧文がめぐるがゆるい波頭である。8は波状口縁深鉢で連弧文をもち6と同類である。

9は口縁貼付部を欠くが、大型浅鉢の口縁部文様帯部分の破片で、長楕円形区画内にLR縄文を残す。10は深鉢底部で地文縄文に沈線の懸垂文。11は有孔鐏付土器片で胴下と内面上部に赤色塗彩されている。

1～3は曾利Ⅲ～Ⅳ式で、接合しない同巧の2個体分は割愛した。4～8は加曾利EⅡ式併行の連弧文土器である。11の有孔鐏付土器もこの期のもの。

12～16は側面調整の著しい土製円板で、12は地文懸糸、13は縄文、14・15は地文縄文の連弧文土器を利用したもの。16は無文。

胴部片など1,100片を割愛した。曾利Ⅲ式・Ⅳ式・連弧文土器と加曾利EⅡ～EⅢ式のものである。

石器は石鎌3、石匙1、打製石斧6、敲石4、剥片3の計17点が出土し、うち12点を図化した。

#### (6) 20号住居跡

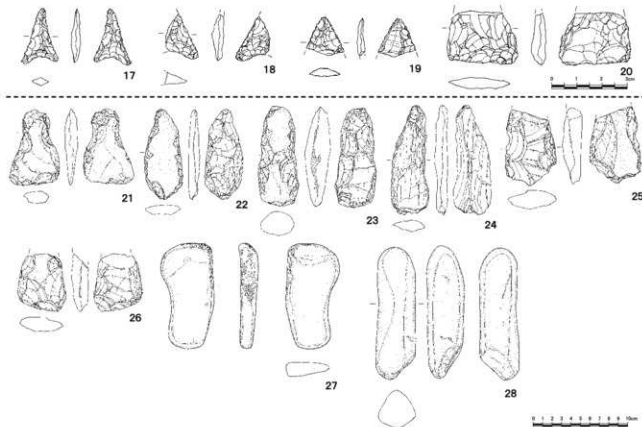
【位置】調査区南西隅の平坦地、ソー20に位置する。西側は21号住居跡・23号住居跡と重複し、両住居跡を埋めて本住居を構築している。

【形状】平面形態は胴張りの隅丸方形を呈する。炉1・炉2、配石を結ぶ線が主軸と思われる。規模は主軸方位の北西-南東方向で4.75m、東西4.80m。確認面から床面の深さは28cmである。

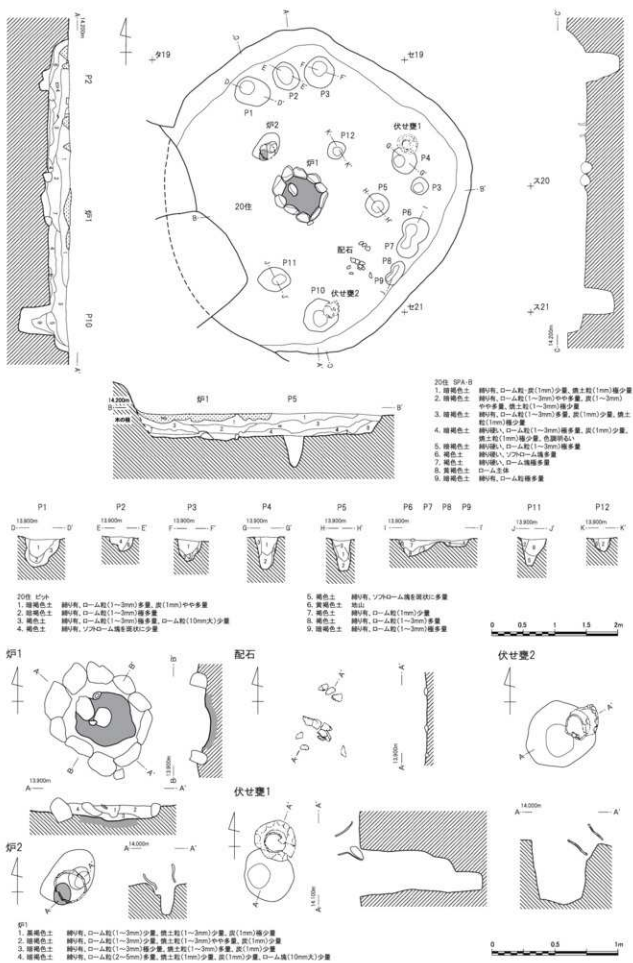
【炉】炉は2基検出した。炉1は住居中央に位置する。径90×72cmの楕円形に石を配置した石囲い炉で、中央は55×42cmの範囲が被熱のため赤化し、深さ10cm程度む。石囲いに使われている石は径20～30cm、2.2～10.0kgもある自然礫で、総重量は50kgになる。炉内にも主軸線上に1点礫がある。

炉2は炉1の北西30cmに位置し、土器が浅く埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢で西側に傾き、西側には径15cmほど被熱のため赤化した部分がある。土器の下には径15cm、深さ25cmのピットがある。

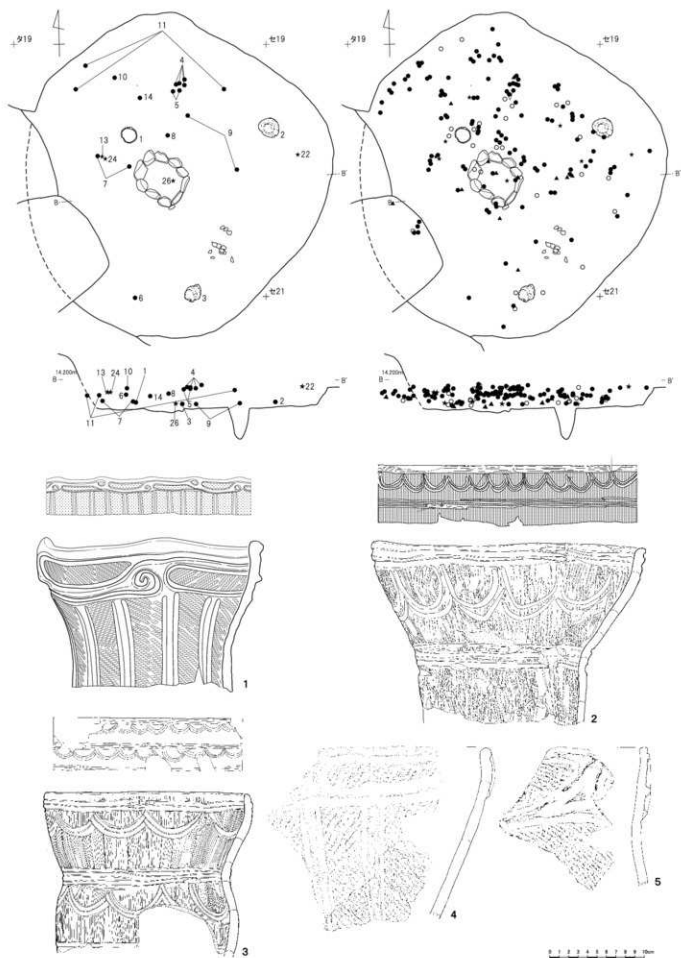
【配石】住居跡の南東、壁から80cmの距離に主軸方向に列をなして石が配置する。主軸右側の北東は3個の礫が20cmにわたって並び、左側は6個の礫が30cmに渡



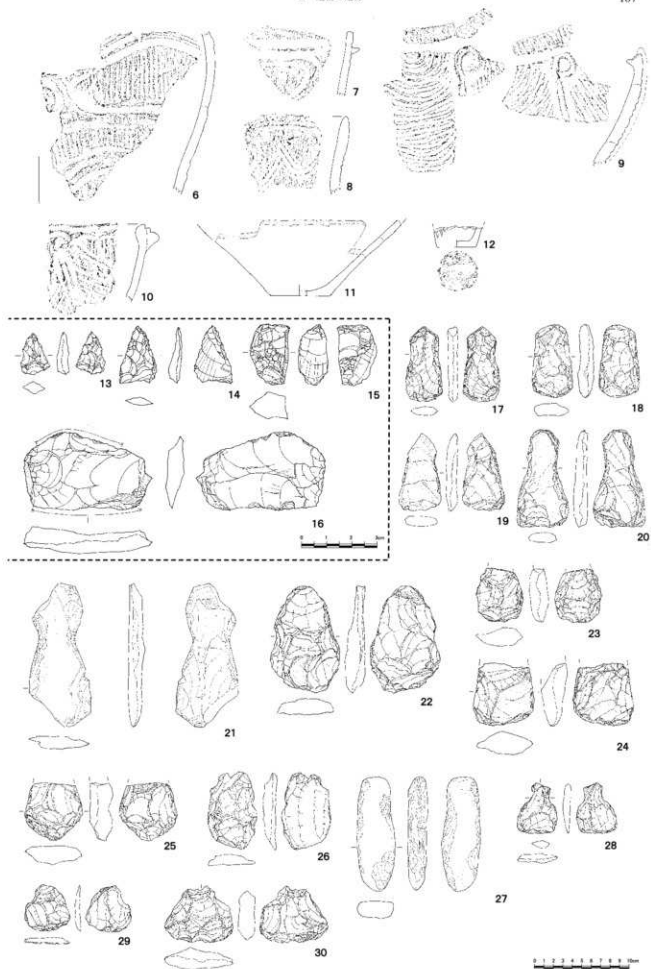
第149図 神明後遺跡19号住居跡出土石器 (1/4、2/3)



第150図 神明後遺跡20号住居跡(1/60) 炉・配石・遺物出土微細図(1/30)



第151図 神明後遺跡20号住居跡遺物出土状況図・出土土器① (1/60、1/4)



第152図 神明後遺跡20号住居跡出土土器②・石器 (1/4、2/3)

って並ぶ。離れた箇所にも礎が3個ある。

【伏婁】P4とP10それぞれの壁際に伏せた状態の深鉢上半部を検出した。P4出土の伏婁の下からは平たい自然礎を検出した。

【ピット】床面上に13基検出した。P2・3・4・5・10・11が主柱穴と思われる。柱の間隔はP3-P4間が2.0m、P4-P10間が2.8mである。

【床・壁】壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

【時期】出土土器から加曾利EⅡ式期。

第73表 神明後遺跡20号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	56×44	24×22	55	土器出土
P2	円形	44×40	30×23	14	
P3	円形	50×47	23×22	41	土器出土
P4	円形	43×40	20×18	96	打斧出土
P5	円形	38×37	19×18	52	土器出土
P6	円形	42×40	18×17	30	
P7	円形	34×33	16×13	16	
P8	円形	22×21	20×16	9	
P9	円形	23×20	14×6	10	
P10	円形	57×50	26×22	51	
P11	楕円形	52×39	22×15	47	土器出土
P12	円形	28×28	14×14	34	
P13	円形	28×27	16×16	14	

【出土遺物】(第151・152図)

1は炉2に埋設された埋竈で、口縁から胴部までを

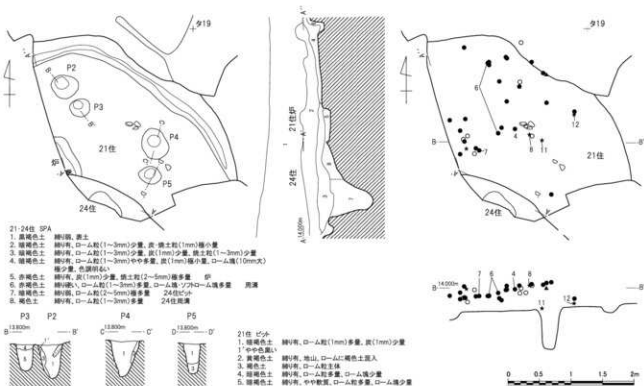
完存する深鉢で、口径22cm・遺存部高16cmである。口縁部文様帯は長楕円形区画と渦巻文4単位で、地文は細い縄文であるがRLとLRの2種ある。胴部の地文も2方向の縄文で沈線2本の間を磨消した直下懸垂文を8単位垂下させる。加曾利EⅡ式中相である。

2は口縁から胴中部までをほぼ完存する伏婁1で口径28cm・遺存部高19cm強である。地文は然糸文で口縁下に2本の沈線をめぐらせ、連弧文の山部は沈線に接する。頸部と胴部を2本の沈線で区画する。

3は口縁から胴中部までの9割を遺存する伏婁2で口径21cm・遺存部高22cmで、地文は櫛状工具による条線で、口縁直下と頸部直下沈線に鋭い山頭が接する2本組の連弧文が描かれている。2と3は加曾利EⅡ式併行の連弧文。

4と5は地文縄文で口縁部文様帯と胴部文様帯からなり、口縁部は長楕円形区画、胴部は磨消直下懸垂文をもつ。4・5は加曾利EⅡ式である。6は胴上部片で、地文然糸文でゆるい波形の連弧文をもつ。7と8は地文櫛描条線で7は突出した区画帯をもち8は列点文と連弧文をもつ。9は沈線列を同心円状に回転させ、軸部には隆帯を貼付けワラビ状突出とし口唇上面にも沈線列が連なる。

10は長い半円形区画と渦巻文で口縁部文様帯を作る



が地文は沈線列で体部は綾杉状に施文され、垂下文は沈線3本で作られる。9は曾利Ⅲ式、10は曾利Ⅳ式。

11は、浅鉢の底部で外面はヘラ整形が著しい。12はミニチュア土器の底部で底近くまで3列の押し文があり、底に幅広の敷物痕がある。2次被熱の痕跡が著しい。

出土土器片のうち1,200片余りを割愛したが曾利・連弧文土器と加曾利EⅡ式のものである。

石器は石鋸2、楔形石器1、スクレーパー1、石匙3、打製石斧10、敲石1の計18点が出土し図化した。

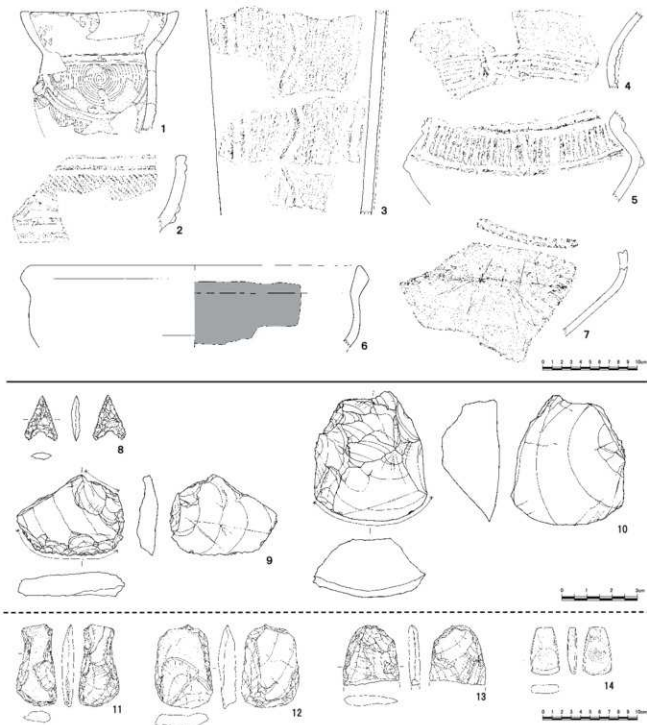
### (7) 21号住居跡

【位置】調査区南西隅の平坦地、ター20に位置する。東側は20号・24号住居跡と重複し、両住居跡に壊される。西側は調査区域外、南側は樹木の根で壊される。

【形状】平面形態は不明だが、隅丸の形態を呈する。確認面から床面の深さは34cmである。

【炉】炉は24号住居のP2と周溝により南側が壊される。深さ10cmで、南側の一部が被熱し赤化する。

【ピット】床面上に4基検出した。P2・4が主柱穴



第154図 神明後遺跡21号住居跡出土土器・石器 (1/4、2/3)

と思われる。P3は埋め戻されており、古い。柱の間隔はP2-P4間が1.7mである。P1は欠番。

【周溝】周溝は1本検出した。上幅は12~28cm、下幅4~12cm、深さ10~18cm、断面「U」字形である。

【床・壁】壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦。

【時期】出土土器から加曾利E I新式期。

第74表 神明後遺跡21号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P2	円形	44×38	19×19	54	土器出土
P3	円形	32×29	15×13	52	
P4	楕円形	50×40	21×19	65	土器出土
P5	円形	36×28	18×14	51	

#### 【出土遺物】(第154図)

1は無文素口縁の小深鉢で、口縁から胴下部までの8割を遺存し、復原口径16.4cm、遺存部高13cm。頸部に2本の沈線をめぐらせ、渦巻を中心に同心円状半隆帯文4単位を隆帯で区画する。縦位の沈線列で体部の地文をつくる。外面に2次被熱によるハジケ現象が著しい。曾利Ⅲ式といえる。

2は、深鉢の口縁部文様帯から頸部無文帯にかかる破片で地文縄文に区画文と渦巻文をもつ。3は大型深鉢の胴中部片で、地文撫糸で貼付隆帯による2本組み垂下文と蛇行懸垂文4単位がある。2と3は加曾利E I新式。4は無文の口縁部に横位の沈線を楕円形で区画する頸部文様帯をもつ。内外面共ハジケ現象が著しい。5は浅鉢の文様帯と体上部を残す。文様帯の地文は縦位の沈線列で、長楕円形で区画を残す。赤褐色を呈し内外面共に2次被熱によるハジケ現象が著しい。加曾利E I新式併行の曾利系土器である。6は口縁から体上部までの3分の1を残す無文浅鉢で復原口径40cm。器形は外反する口縁部・内傾する無文帯と体部に分かれ、内外面とも横ナデ整形が丁寧である。外面の口縁部の一部と内傾部内面の全面に赤色塗彩が認められる。2次被熱によるハジケ現象が著しい。内面上部の暗褐色部が彩色か否かは明らかでない。7は摩滅著しい口縁部をもつ浅鉢で口唇上面に沈線と刺突文がある。外面は口縁部と体部の区分のない無文である。内外面共ハジケ現象が著しい。出土土器片のうち480片余りを割愛したが加曾利E I式のものである。

石器は石磯1、スクレーパー2、打製石斧3、小形磨製石斧1の計7点が出土し凶化した。

#### (8) 22号住居跡

【位置】調査区の中央の斜面地、ター14に位置する。

【形状】平面形態は隅丸方形を呈し、北西側が幅広くなる。規模は主軸方位の北西-南東方向で4.75m、横幅5.10m。確認面から床面の深さは113cmである。

【炉】炉は住居中央北西寄りに位置する。上端幅102×68cm・深さ23cmの楕円形を呈するが、赤化部分はない。炉の西側に深鉢の上半分が出土した。

【周溝】周溝は1本検出した。上幅は25cm前後、下幅10~20cm、深さ20~30cm、断面「U」字形である。

【ピット】床面上に6基、周溝内に6基検出した。P2は埋め戻されておりP1より古い。P1~6の6本が支柱穴で、5本柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P6間とP4-P5間が2.3m、P6-P5間は2.6m、P1-P3間が2.1m、P3-P4間が1.8mである。

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、斜面の高い部分で113cm、低い部分で34cmの掘り込みがある。床面は平坦である。

【覆土】床面から10~50cmほどすり鉢状に埋没した状態で大量の土器が出土している。

【時期】出土土器から加曾利E I新式。

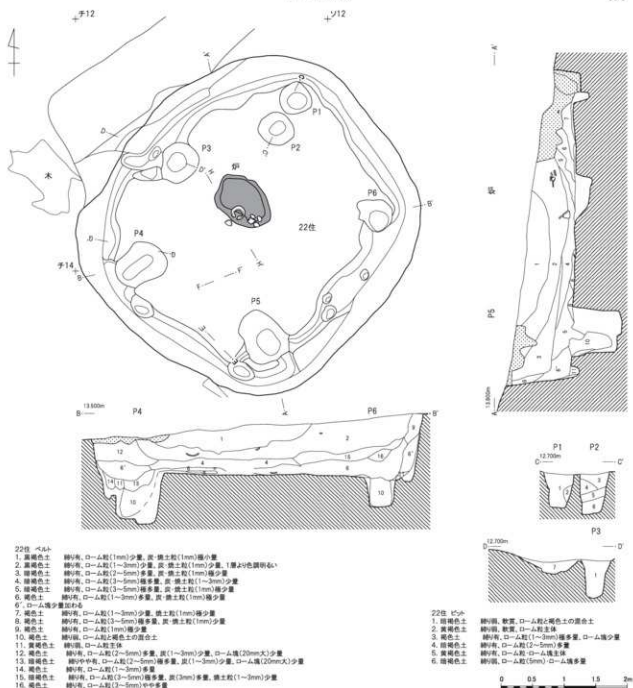
第75表 神明後遺跡22号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	49×48	30×27	29	
P2	円形	53×50	26×20	77	
P3	円形	68×58	31×27	61	
P4	楕円形	82×65	55×18	78	
P5	楕円形	86×48	42×31	68	
P6	不整形	52×51	32×31	52	

#### 【出土遺物】(第158~162図)

1は炉内出土土器で口縁から胴中部までを遺存し、口径15.4cm・遺存部高16cmである。口縁部文様帯と胴部文様帯からなる小深鉢で、口縁部の地文はRL縄文で、胴部は縦位のRL縄文である。口縁部は大きく波形に突出する波頭と小突出の2波頭下に渦巻文を立体的に抽出し、2本組隆帯でつなぎ文をつくり、端は渦巻く。胴部は隆帯で直下懸垂文と蛇行懸垂文をつくるが不定形つなぎ文を入れる。胎土には石英と輝石を含み、整形良好で口縁内部は横ナデ整形が著しく、赤~黄褐色を呈する。加曾利E I古式である。

2は最下層出土の口縁から胴最下部までを残し、口



第155図 神明後遺跡22住居跡(1/60) 炉(1/30)

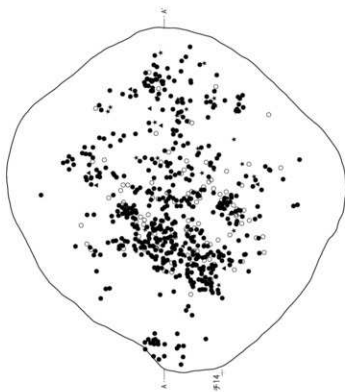


F12

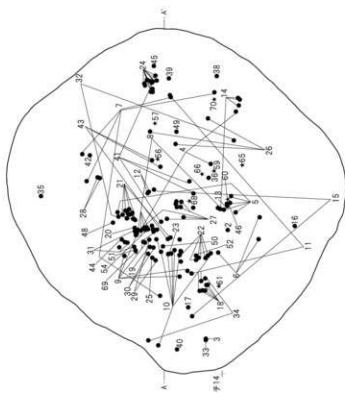
F12

F12

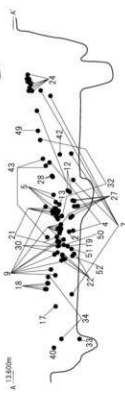
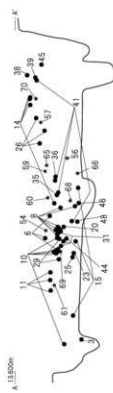
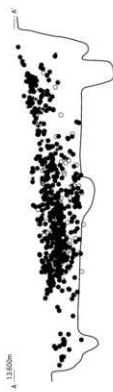
F12



4+



4+



第156図 神明後遺跡22号住居遺物出土状況図① (1/60)

径24.5cm、遺存部高29.6cm。口縁部文様帯と胴部文様帯から成り、口縁の地文は横位に施文された燃糸文、胴部は深く施文された細い燃糸文である。口縁の上に2本組隆帯を貼付けて先端が渦巻くつなぎ文を作るが、基部は十字状となる。整形・焼成ともに良好である。

3は口縁から胴部上までを遺存し、口径47cm・遺存部高30cm、口縁上に中空の把手をもち、対になる2つの突出部上面は渦巻く。口縁部文様帯・幅狭の頸部と胴部文様帯に分かれる。細く深い燃糸文を地文とし、2本組の隆帯で口縁部につなぎ文を作り、胴上部にも連結文をもつ。整形は特別入念で、焼成も良好である。口縁内部などに黒斑（黒色塗彩？）がある。

4は口縁から底部まで底板のみを欠く準円形の小深鉢で、口径17cm・遺存部高24.5cm。口縁部文様帯と胴部文様帯からなり、中空把手1ヶ所をもつ。地文は燃糸文で体部は縦位、口縁部は横位施文である。2～4は加曾利E I 古式である。

5は口縁から胴中部までを残す口径15.5cm遺存部高13.5cmの素口縁深鉢で燃の長い燃糸文を地文とし、口縁部は隆帯上に刻目を入れたつなぎ文としその一部が渦巻いて口唇に達す。加曾利E I 古式並行。

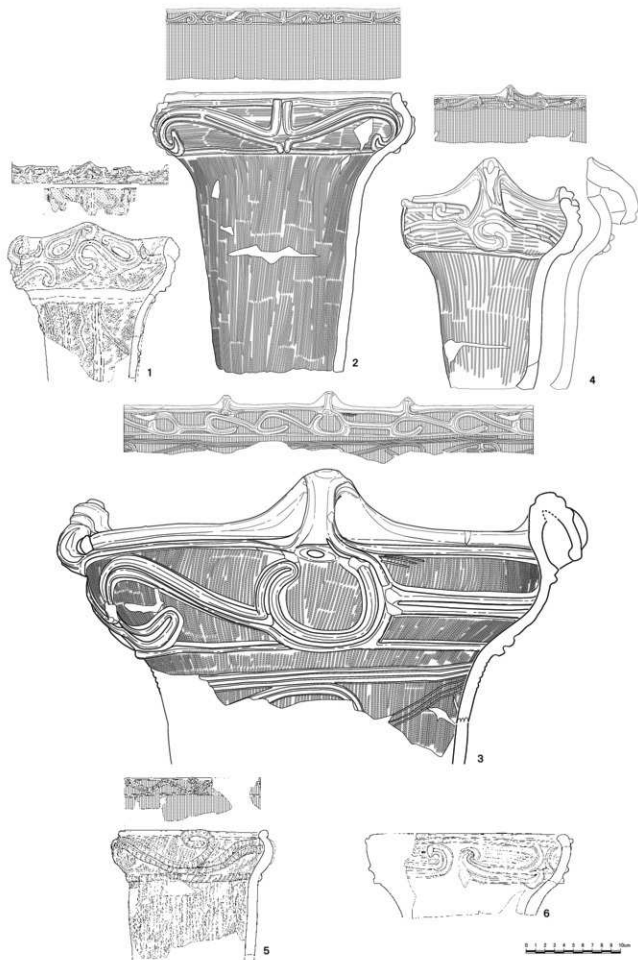
6は口縁から胴部までを残し、口径21cm・現存高10cmの小深鉢で、口縁部は横位の燃糸文に、隆帯で長楕円形区画をつくるが端部は渦巻く。頸部と胴部は7と同巧。

7は下層出土の深鉢で口縁から胴中部までの約5割を遺存し、復原口径40cm・遺存部高27cmである。地文は深い燃糸文であるが、口縁部は横位・斜位に施文する。口縁部は隆帯でつなぎ文を作り、端は渦巻き隆帯を交互刺突する。隆帯で十字状区画文をつくる。短い無文部があるが、胴部との区画はつくらない。6と7の胴部は地文のみで加曾利E I 古式から加曾利E I 新式古相への過渡期を示す。

8と9は口唇上に中空把手・口縁部文様帯にも中空



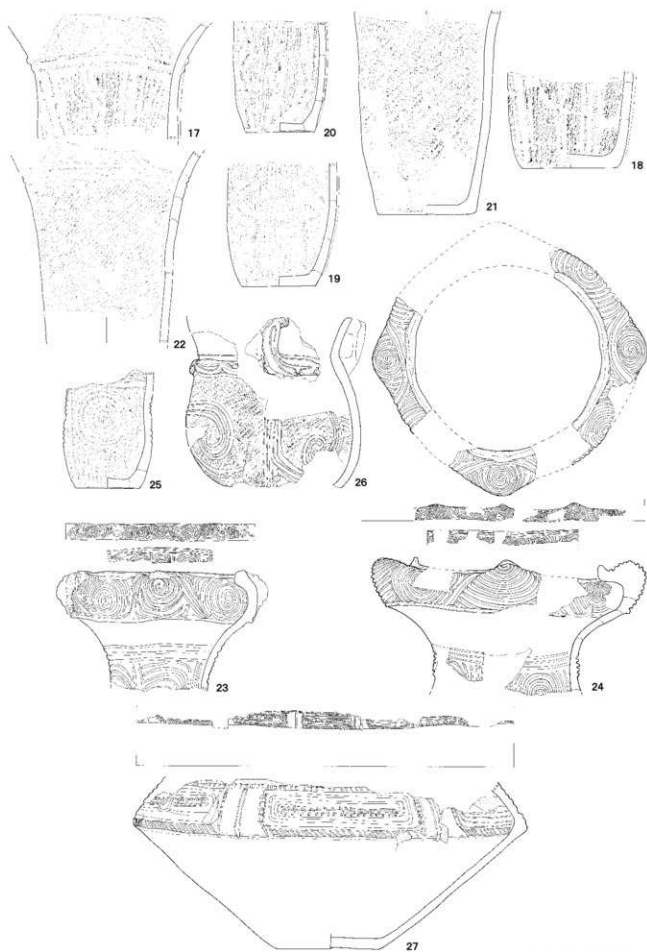
第157図 神明後遺跡22号住居跡遺物出土状況図② (1/40)



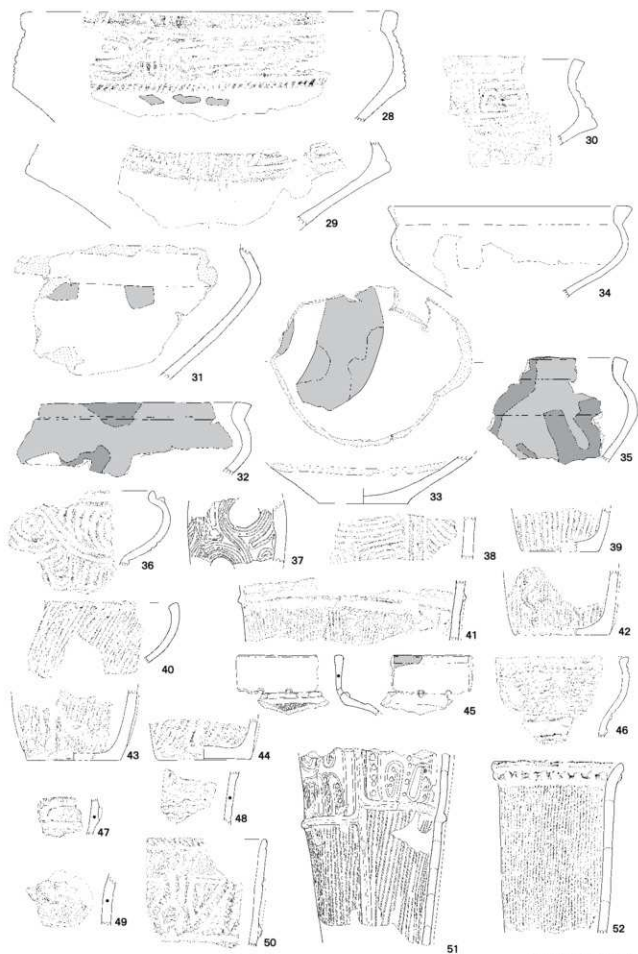
第158図 神明後遺跡22号住居跡出土土器① (1/4)



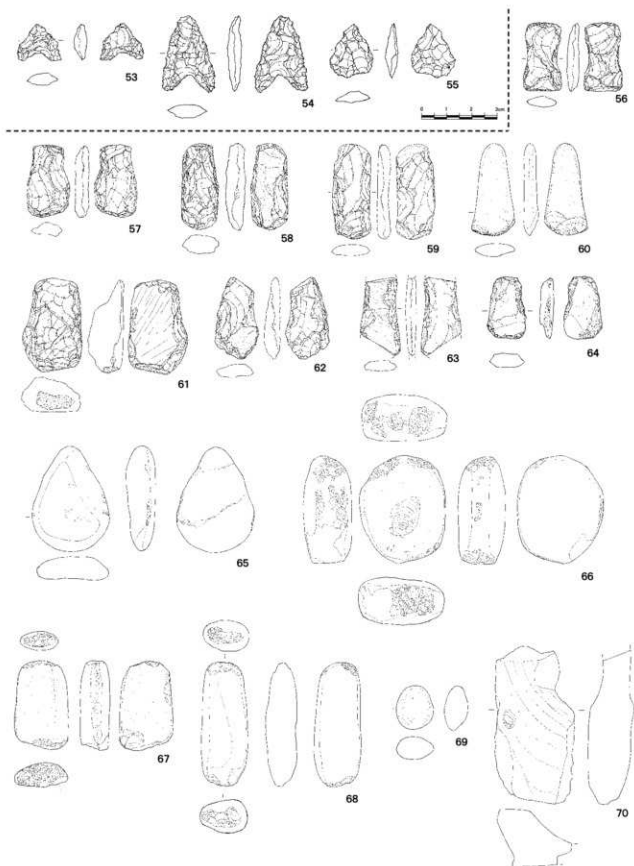
第159図 神明後遺跡22号住居跡出土土器② (1/4)



第160図 神明後遺跡22号住居跡出土土器③ (1/4)



第161図 神明後遺跡22号住居跡出土土器④ (1/4)



第162図 神明後遺跡22号住居跡出土石器 (1/4、2/3)

把手をもつ小深鉢で、幅状の頸部無文帯を持ち、胴部の地文は摺糸文であるという共通性をもつ。8は口径21cm・器高25cmで、口縁部文様帯は地文の沈線列の上に先端が渦巻くつなぎ文を入れ、中空把手を2つの波頭下に入れる。9は口径19.4cm・器高23cmで、口縁部文様帯は、沈線列の上に横長区画をつくり、中空把手をつくる。胴部は2本組隆帯の懸垂文4単位を入れる。8と9は共に加曾利E I新式古相である。

10は口縁から底までのほとんどを残す小深鉢で、口径19cm・器高21cmである。口縁部と胴部に縦位に摺糸文を施し、頸部に幅状の無文帯がある。整形はラフで焼成は甘い。6・7と同じ構成上の特徴を持つ。

11は地文摺糸文で、口縁部波頭部は上下・左右に共通する中空把手をつけ、中空部縁を渦巻かせる。無文帯の胴部には隆帯で懸垂文をつくる。

12は口縁から頸部無文帯までを遺存し、口径24cm・遺存部高13cmである。口縁部文様帯の地文は深く丁寧な横位に施文された摺糸文で、2本組隆帯でつなぎ文をつくり、端部は渦巻く。大と小2対の波頭をつくり、波頭に小渦巻を表現する。整形入念で口縁内部はヘラで横位調整し焼成良好。典型的な加曾利E I新式古相。

12～15は頸部無文帯が区画され、口縁部文様帯の地文が横位施文の摺糸文であること、隆帯によるつなぎ文の端が渦巻くことが共通する。12～14は中形・15は大形深鉢であり、15は外反する無文口縁がつく。この類の口縁部破片8を割愛した。加曾利E I新式古相。

16は無文口縁の深鉢で口縁から胴最下部までをほぼ完存し、口径24.5cm・遺存部高35cmである。無文の素口縁下の体部の地文は摺糸文で、間隔をあけた2本組の貼付け隆帯を4単位入れ、2本の隆帯間に円形又は楕円形隆帯を加える。口縁部内側にヘラ磨き調整がある。

17は無文帯から胴上部、18は胴下部から底までであるが、共通するのは地文が摺糸文で隆帯貼付けによる2本組懸垂文と蛇行懸垂文4単位が入ることである。

19と20は胴中部から底までを完存し、地文摺糸文の上に隆帯貼付けによる蛇行懸垂文のみという共通点を持ち、19は5単位、20は8単位であるが加曾利E I新式。

21は胴部から底まで残す深鉢で遺存部高21cm。胴部全面に複節RLR縄文を縦位施文。2次被熱が著しい。

22は頸部無文帯下部から胴中部までを残す。頸部と

胴部の境にはラフな3本の沈線をめぐらす。胴部は密にLR縄文を施文する。21と22は加曾利E I新式。

23～25は半隆帯文を基調とする土器群で渦巻弧状という特徴を持ち、23と24は同巧で共に口縁に4波頭をもち、波頭部外側の渦巻中心部は突出する。

23は口径19cm・遺存部高13cmで、口縁部文様帯は渦巻中央が突出する口縁側と平板な下側の各4の渦巻を半隆帯文でつくる。幅状の頸部無文帯下の胴部は沈線で4単位に区画され、半隆帯文で渦巻をつくる。

24は、23と同巧で口径20cm・遺存部高15cmとやや大きい。突出する渦巻頂が、口唇より上部に突出する特徴を除いて、半隆帯文の23と同様である。25は23よりやや小さい深鉢胴部で、半隆帯文による渦巻と縦位沈線が全面に施文される。23～25は加曾利E I新式古相または中期に併行する半隆帯文の異系土器である。

26は、無文口縁に中空把手をもち、頸部に横位の8字状隆帯をめぐらせ、胴部文様帯をもつ。胴部文様は縦位のRL縄文を地文とし、胴部中央に中心をもつ大渦巻を沈線でつくる。大木7b式に近い。

27は口縁を欠き、文様帯と体部を遺存する浅鉢で胴最大径42cm・遺存部高18cmである。文様帯は沈列を刻目隆帯で長方形に区画し、その間に縦位沈線を入れる。焼成良好で黄褐色を呈し、内部最上部に赤色塗彩がある。勝坂式末期のもの。

28～30は無文の口縁部下に文様帯をもち体部に続く浅鉢である。28の文様帯は横長と縦長の変形半隆帯を描き文様帯下部には刻目を入れる。29は口縁と文様帯を欠失するが、沈線による区画と刺突文をもち、体部との境に刻目を入れる。30は短く外反する無文口縁下の文様帯は横長区画で、太い沈線の一部に赤色塗彩がある。31～34は無文浅鉢で、31は口縁を欠くがその下部外面に、32は口縁直下に赤色塗彩が施されている。33は浅鉢底部で、大きな円弧文様の赤色塗彩が、内面底部に描かれている。34と35は無文の小浅鉢で、35には赤色塗彩が施されている。

36～39は半隆帯文深鉢破片で、36は渦巻の中心が突出し、37は口縁直下で中空構造をもって突出する。38は斜位沈線の胴部破片で、39は底部である。これらは、23～25と同様に加曾利E I式に併行する異系の半隆帯文土器である。



40は斜位沈線をもつ曾利系の深鉢口縁部である。

41～44は本住居に最も多い類の破片で41～43は地文擦糸で、貼付隆帯で懸垂文をもち、44は地文縄文で貼付懸垂文をもつ。共に加曾利EⅠ新式。

45は肩の張った球形胴の有孔鈎付土器片で、口縁基部を円孔が貫通する。胎土に金雲母を含み、鈎近くの外面を磨削研磨する。口縁内部に彩色痕が残る。

46～51は覆土下層に流入した土器の代表である。46は口縁部区画が2列の角押文、区画内は角押文列で、胎土にガラス光沢の粒子を多く含み、47は文様帯下部、48には波状文と指頭圧痕があり、49は圧痕のみで、47～49の胎土には金雲母を含み、阿玉台Ⅱ式である。

50は筒形深鉢で胴上部文様帯は刻目隆帯で三角形などの区画をつくり、区画内には三叉文を入れ、胴下半は擦糸文のみ。51は筒形深鉢の文様帯下部と胴上部片で、文様帯は太い沈線でU字と逆U字形をつくり刺突を加える。胴部は擦糸文を全面施文する。52は口縁に太い刻目隆帯をめぐらし他の体部には擦糸文を深く全面施文する。49～51は勝飯Ⅲ式。

破片2,600余を割愛したが、80%は加曾利E式、15%は併行する異系土器である。このなかには小深鉢が数個含まれるが、これらには彩色が施されていないため、割愛した。

石器は石鎌3、打製石斧19、敲石10、磨石6、くぼみ石1、石皿1、軽石1、不明1の計42点が出土し、うち18点を図化した。

#### (9) 23号住居跡

【位置】調査区南西隅の平坦地、ソー22に位置する。東側は20号住居跡、北側は24号住居跡と重複し、24号住居跡を埋め、20号住居跡に壊される。西側と南側は調査区域外、北側は樹木の根で壊される。

【形状】平面形態は不明。確認面から床面の深さ21cm。

【炉】炉は重複した状態で2基検出した。全体規模は165×90cmある。

炉1は住居の北西寄りに位置する。上端幅89cm・深さ17cmの円形を呈し、中央部分の径38cmのローム面が被熱で赤化する。割れた自然礫が8個ほど赤化部分の周囲に散在する。

炉2は炉1の南東側に重複する。上端幅90cm・深さ

5cmの楕円形を呈し、中央部分の70×54cmのローム面が被熱で赤化する。赤化部分の周囲10～20cmが溝状に5cmほど深くなっている。自然礫が4個ほど散在する。炉1・2ともにおそらく本来は、赤化していない帯状の溝に石を埋設した石囲い炉であったと思われる。

【ピット】床面上に9基検出した。P1は埋め戻されており古い。P4・7・8・9が主柱穴と思われる。柱の間隔はP9～P8間が1.5m、P8～P4間は1.8mである。

【床・壁】壁は緩やかに立ち上がり床面は平坦である。

【時期】出土土器から加曾利EⅡ～EⅢ式。

第76表 神明後遺跡23号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	38×36	24×19	39	土器出土
P2	円形	22×19	10×9	18	
P3	円形	24×24	14×9	30	
P4	楕円形	38×28	13×12	55	
P5	楕円形	63×39	39×20	20	
P6	円形	50×47	28×25	18	土器出土
P7	楕円形	34×24	12×10	64	
P8	楕円形	43×30	20×18	59	
P9	円形	34×29	27×20	51	土器出土

【出土遺物】(第164図中1～14)

1と2は半隆帯文を弧状に施文し、1は渦巻の中心突出部が剥離するが、その上の口唇が波形小把手となり口縁沿いの沈線端が渦巻く。3～6は沈線列を地文とする類で、3には貼付隆帯で区画し、4は胴部片、5は頸部に蛇行隆帯をめぐらし、隆帯の蛇行懸垂文を入れる。6は綾杉状沈線と垂下隆帯をもつ。1～6は加曾利式に併行する異系土器で、1は加曾利EⅠ新式古相併行、6は曾利Ⅳ式といえる。7と8は地文縄文に磨消懸垂文をもつ加曾利EⅡ式である。9と10は地文条線の類で、9は2列の列点文と連文をもつ。11と12は地文縄文に磨消懸垂文をもつ。7～12は加曾利EⅡ式新相といえる。細片150片を割愛したがほとんどは加曾利EⅠ新式と加曾利EⅡ式である。

石器は石匙1、打製石斧2、磨製石斧1の計4点が出土し図化した。

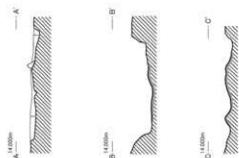
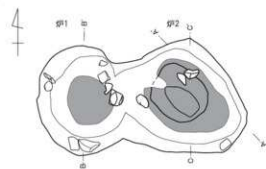
#### (10) 24号住居跡

【位置】調査区南西隅の平坦地、ター21に位置する。南側は23号住居跡、北側は21号住居跡と重複し、21号住居跡を壊し、23号住居により埋められる。西側は調



第163図 神明後遺跡23・24号住居跡・遺物出土状況図(1/60)

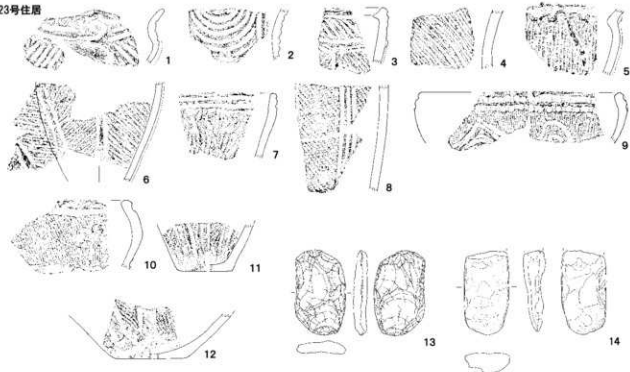
炉



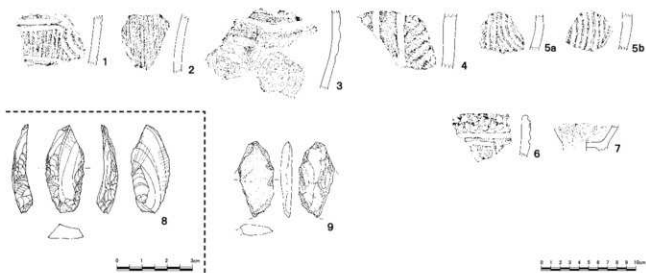
23B 炉  
1. 凝褐色土 2. 砂質土、粘土粒(1~5mm)極少量、灰(1mm)少量



## 23号住居



## 24号住居



第164図 神明後遺跡23号住居跡炉(1/30) 23・24号住居跡出土土器・石器(1/4、2/3)

査区域外、東側は樹木の根で壊される。

【形状】平面形態は不明。確認面から床面の深さ55cm。

【ピット】床面上に2基検出した。いずれも主柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P2間が2.4mである。

【周溝】周溝は1本検出した。上幅は15-25cm、下幅8cm、深さ8cm、断面「U」字形である。

【壁】壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【時期】出土土器から加曾利E時期。

第77表 神明後遺跡24号住居跡ピット一覽表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	半載	45×-	26×-	64	
P2	半載	52×-	15×-	71	

【出土遺物】(第164図下1~9)

1は地文熱糸で区画をもつ口縁文様帯片である。2は地文熱糸文のみの胴部片。3は口縁文様帯下部から頸部無文帯にかけての破片で、1片は21号住居跡表土土のものが接合した。4は地文縄文に磨消懸垂文をもつ。5は半隆帯文で同心円を描く。6は口縁に列点文、体部は地文縄文に磨消を加える。7は台付深鉢で、地文縄文に幅広磨消文をもつ。1~3は加曾利EⅠ式、4はEⅡ式、6と7は加曾利EⅢ式。5は異系統土器、中心部は発掘区域外で細片50片が出土したが95%以上が加曾利E式である。

石器はナイフ1、打製石斧1が出土し図化した。

#### (11) 25号住居跡

【位置】調査区南側の平坦地、ター15に位置する。中央を溝1、西側を土坑1、東側を樹木の根で壊される。

【形状】遺構確認面からの掘り込み浅く平面形態不明。

【炉】上端幅87×66cm・深さ21cmの楕円形を呈し、南側に一段平坦面があり、北側が深くなる。北側は幅25cmほどピローム面が被熱し赤化する。

【埋蔵】住居南側に土器が埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設していたピットは上端65×45cm、下端16×14cm、深さ55cm。

【ピット】4基検出した。いずれも主柱穴と思われる。

【時期】出土土器から加曾利EⅢ時期。

第78表 神明後遺跡25号住居跡ピット一覽表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	42×35	27×11	25	
P2	円形	45×38	30×28	16	
P3	円形	36×34	20×17	30	
P4	円形	42×36	17×12	40	

【出土遺物】(第165図下1~9)

1は埋蔵で、胴上部から胴下部の9割を遺存し、遺存部高24.5cmである。胴中部がくびれる大深鉢で胴部は縦位のLR縄文を全面に施文し、2本の沈線文を磨消した直下懸垂文8本と「U」字形文を入れる。胎土には砂粒と橙色粒子を含み、施文と整形はラフで、焼成やや良好で赤褐色を呈する。加曾利EⅢ式であり25号住居跡の時期を示す。

2は覆土上層に流入した大深鉢の胴部破片で、縦位のRL縄文を地文とし、貼付隆帯で円形文と直下懸垂文をつくる。加曾利EⅠ新式。3は地文縄文で口唇から長い半円形区画を貼付隆帯でつくる。4と5は沈線列に連動する。

細片60片を割愛したが、ほとんどは加曾利EⅡ式と加曾利EⅢ式で、若干の曾利系土器を含む。

石器は打製石斧6点が出土しうち4点を図化した。

#### (12) 屋外埋設土器

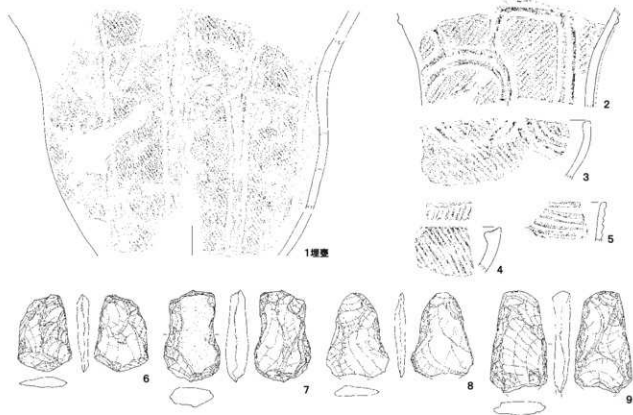
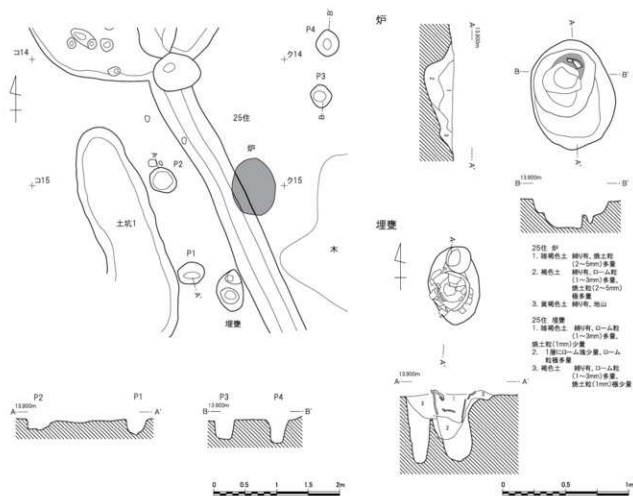
【石囲い屋外埋設土器】調査区中央の平坦地、ソー16に位置する。埋設土器の周囲を石で囲う。石囲い炉の可能性があるので、埋設土器の周辺を精査したが、柱穴になるようなピットや、床面となるような掘り込みが確認できなかった。また、土層堆積等には焼土粒や焼土面を確認できなかったため、炉と確定することもできないため、単独の屋外埋設土器として報告する。

土器は胴下半を打ち欠いた深鉢口縁部を正位に埋設する。土器の周囲は135×90cmの範囲に石を配置する。石には自然礫の他、石棒を使用している。

第166図1は埋設土器に用いられたもので、口縁から胴中部までの9割を遺存し、口径32cm、遺存部高17cmの波状口縁深鉢である。地文はLR縄文で、口唇直下に2列の沈線、それに接するように2本組沈線で頂の鋭い連弧文を入れる。胴中部にも2列の沈線をめぐらせる。施文・整形共に丁寧な作りである。2次被熱によるハジケ現象が内面と外面に著しい。

2は1に接近して出土したもので、口径約30cmの平縁深鉢で地文は熱糸文で、連弧文などの施文は1と同巧である。加曾利EⅡ式古相に併存する連弧文土器である。

3は緑泥片岩世の凹石で、果粒受と思われる凹み6



第165図 神明後遺跡25号住居跡・遺物出土状況図 (1/60) 伊・埋壙 (1/30) 出土土器・石器 (1/4、2/3)

ヶ所と3本の石器修理用と思われる条痕が表にあり。裏面には擦り面、石器修理痕、果粒受痕1がある。

4は石囲いに利用された大石棒の幹部破片で、凝灰岩質砂岩と思われる。

【屋外埋設土器1】調査区西側の平坦地、ター18に位置する。2.5m南に21号住居跡、0.8m南西に屋外埋設2がある。深鉢胴部下半を正位に埋設する。

第167図1は屋外埋設土器1であり、胴中部から底近くまでの90%を遺存し、その部分の高さ18cm。複筋のRL縄文を地文として磨消直下懸垂文16を描く。器の表・裏面共に2次被熱によるハジケが著しい。加曾利EⅡ式である。

【屋外埋設土器2】調査区西側の平坦地、ター18に位置する。1.2m南に21号住居跡、0.8m北東に屋外埋設

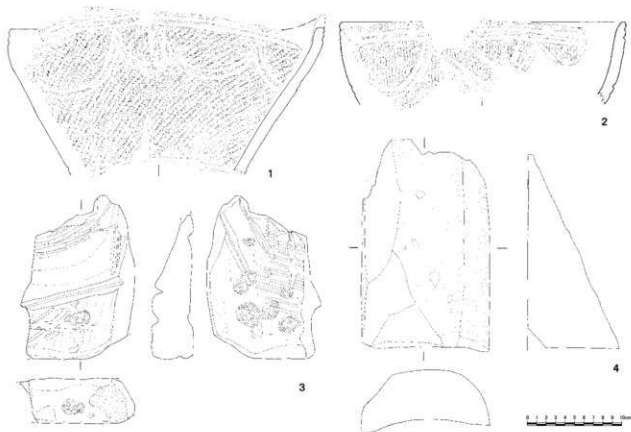
1がある。深鉢胴部下半を正位に埋設する。

第167図2は屋外埋設土器2であり、胴中部から底まで完存し遺存部高22cm、胴中部で上下折り返しの文様構造で、LR縄文を地文とし、進U字形磨消をもつ。ハジケ現象は内面に著しい。加曾利EⅢ式である。

【屋外埋設土器3】調査区西側の21号住居跡覆土層で検出した。3.5m北に屋外埋設2がある。深鉢胴部下半を正位に埋設する。

第167図3は屋外埋設土器3であり、21号住居跡覆土層出土の1片と接合した。大深鉢の胴中部から下部片で、LR縄文を地文とし、胴部の連弧文の波頭部下から磨消直下懸垂文16本を描く。2次被熱によるハジケ現象は、内面が著しい。加曾利EⅡ～EⅢ式といえる。

石囲い屋外埋設土器



第166図 神明後遺跡第28地点石囲い屋外埋設土器 (1/30) 出土土器・石製品 (1/4)

## (13) 炉穴

調査区南東の平坦地、カー15に3基検出した。風倒木痕と重複し、風倒木痕に壊される。3基は共通の足場から放射状に3方向へ広がり、端部に焼土面がある。

【炉穴1】炉は壁面までロームが被熱し非常に硬く赤化する。

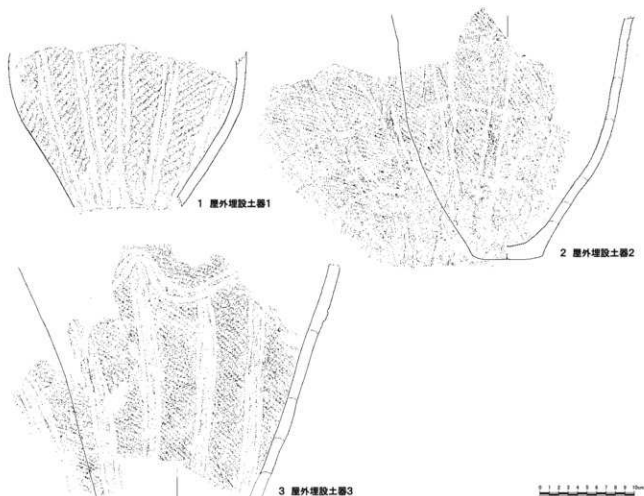
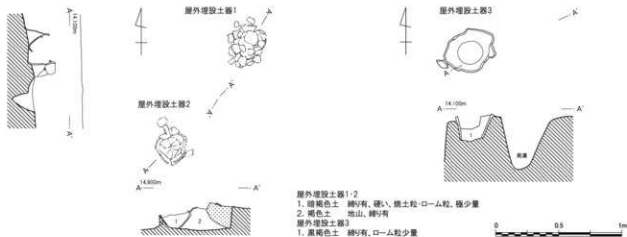
【炉穴2】炉内から25cm大の平たい自然礫を利用した台石が出土した。赤化範囲は小さい。

第79表 神明後遺跡第28地点一覧表

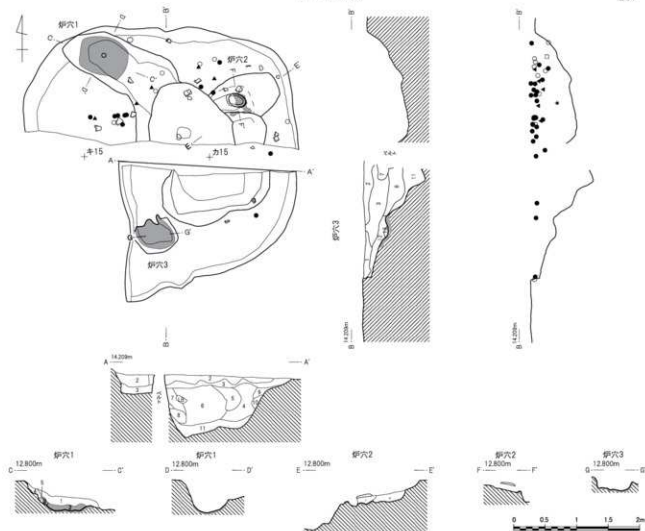
(単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
炉穴1	楕円形	198×92	131×72	52	焼土面82×60cm、足場有り、土器出土
炉穴2		(93)×76	(35)×27	46	焼土面42×19cm、足場有り、台石、土器出土
炉穴3	楕円形	138×65	120×49	36	焼土面54×52cm、足場有り、土器出土

【炉穴3】3基の中では最も浅い。壁面までロームが被熱し非常に硬く赤化する。



第167図 神明後遺跡第28地点屋外埋設土器1・2・3 (1/30) 出土土器 (1/4)



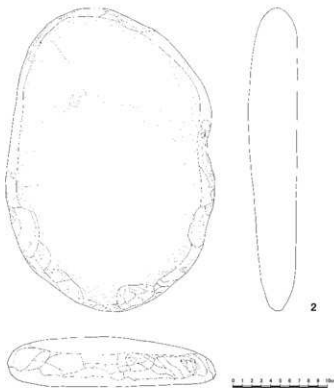
## 炉穴 1・2

1. 暗褐色土 埴り強、粘性有、焼土粒(2mm以下)やや多量、炭化物(2mm以下)わずか
2. 赤褐色土 埴り強、粘性やや弱、粒徑の細かな焼土主体、焼土塊(5~10mm大)少量
3. 暗褐色土 埴り強、粘性やや弱、焼土塊(40mm大以下)を塊状に少量焼成面
4. 暗褐色土 埴り強、粘性有、ローム分やや多量、ローム粒(25mm以下)やや多量、焼土(25mm以下)少量、色調明るい
5. 暗褐色土 埴り強、粘性やや弱、焼土(55mm大)やや多量、焼成面裏の堆積

## 炉穴3

1. 黒褐色土 埴り有、焼土粒極少量
2. 暗褐色土 埴り有、ローム粒・焼土粒(1mm)多量
3. 褐色土 埴り有、ローム粒・焼土粒(1~3mm)多量、炭極少量
4. 暗褐色土 埴り有、細かい、ローム粒(1~3mm)少量
5. 褐色土 埴り有、細かい、ローム粒(1~5mm)極多量、ローム塊少量
6. 黄褐色土 埴り有、ローム粒主体
7. 黄褐色土 埴り有、ローム土粒少量
8. 暗褐色土 埴り有、ローム粒少量
9. 褐色土 埴り有
10. 黄褐色土 埴り有、ローム粒主体
11. 黄褐色土 埴り有、ローム塊主体
12. 褐色土 埴り有、ローム粒少量、焼土粒(1~3mm)極多量
13. 褐色土 埴り有、ローム塊多量、焼土塊少量

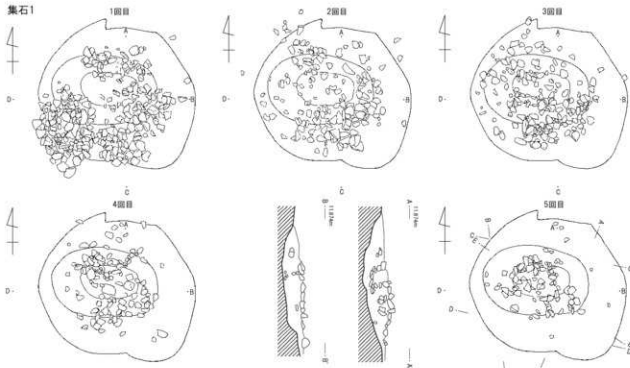
炉穴3を風倒木(新しい)が切る  
(1層 カウラン、2~11層 風倒木1、12~13層 炉穴3)



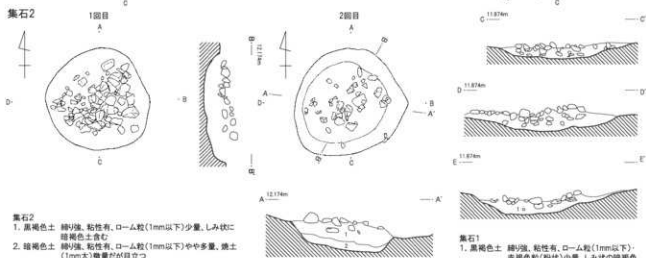
第168図 神明後遺跡第28地点炉穴1~3・風倒木痕(1/60)・出土石器(1/4、2/3)



## 集石1



## 集石2



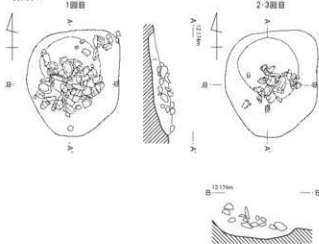
## 集石2

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、しみ状に  
暗褐色土含む  
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)やや多量、塊土  
(1mm大)数量だが目立つ

## 集石1

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)  
赤褐色粒(粉状)少量、しみ状の暗褐色  
土塊(30mm大)少量

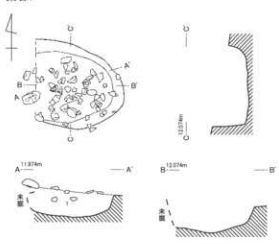
## 集石3



## 集石3

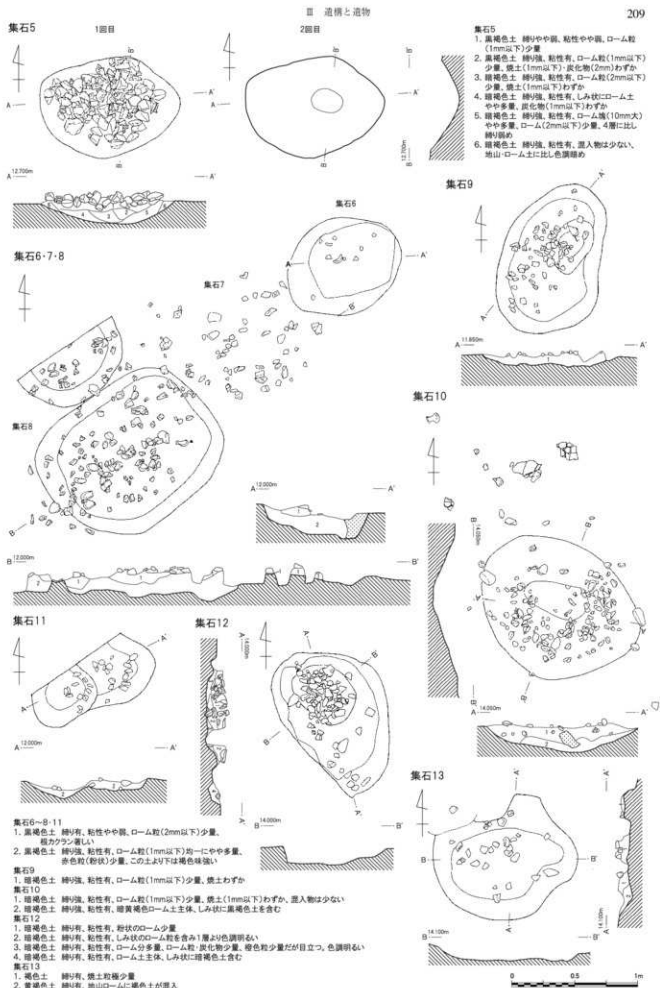
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム(1mm大)塊土多め、  
暗人物は少ない、縦断面の色調は暗い

## 集石4



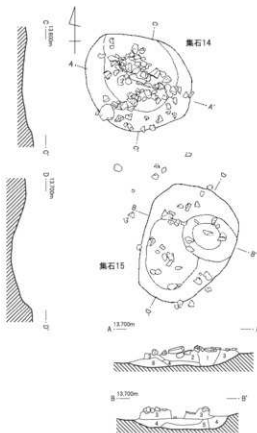
## 集石4

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、下部にしみ状のローム土少量、ローム粒(1mm以下)塊土少量

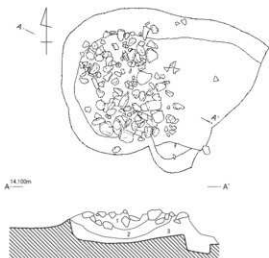


第170図 神明後遺跡第28地点集石5~13(1/30)

## 集石14-15



## 集石19



## 集石14-15

1. 黒褐色土 砂質有、粘性や中硬、ローム(1mm以下)少量、粘性弱めでカクラン気味
2. 黒褐色土 砂質、粘性有、形状ローム少量、塊土(1mm大)わずか
3. 黒褐色土 砂質強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、混入物は少ない
4. 黒褐色土 砂質強、粘性有、ローム粒(1mm以下)多量、しみ状に黒褐色土含む
5. 黒褐色土 砂質強、粘性有、ローム粒(5mm大)しみ状に黒褐色土多量
6. 黒褐色土 砂質強、粘性有、しみ状のロームをみ含み顕明

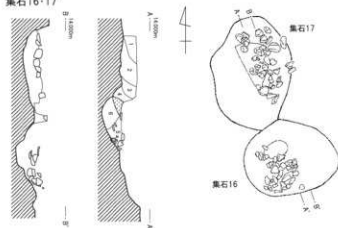
## 集石16-17

1. 黒褐色土 砂質有、微土粒・炭(1mm)少量、ソフトローム塊極少量
2. 褐色土 砂質有、微土粒・炭(1mm)少量、ソフトローム塊極少量
3. 黒褐色土 砂質有、微土粒・炭(1mm)少量
4. 黒褐色土 砂質有、微土
5. 黒褐色土 砂質強、微土粒少量、炭(2mm)中多量
6. 褐色土 砂質有、ローム粒多量、微土粒・炭少量

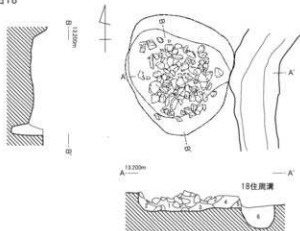
## 集石18

1. 黒色土 砂質弱、ローム粒(1mm)多量
- 1'ロームが多
2. 黒褐色土 砂質有、ローム粒(1mm)多量
3. 褐色土 砂質有、ローム塊に黒色土混入
4. 褐色土 砂質有、微土
5. 褐色土 砂質有、ローム粒(1~3mm)極多量、ローム塊(10mm大)多量
6. 褐色土 砂質有、微土、ローム塊少量

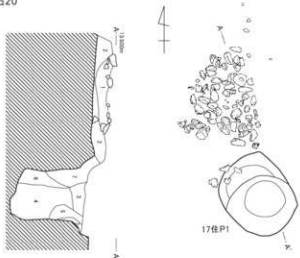
## 集石16-17



## 集石18



## 集石20



## 集石19

1. 黒褐色土 砂質有、ローム粒少量
2. 黒褐色土 砂質有、ソフトローム少量
3. 褐色土 砂質有、ソフトロームに黒色土混入

## 集石20

1. 黒褐色土 砂質有、ソフトロームが強状に少量、黒石覆土、ローム粒(1~3mm)多量
2. 褐色土 砂質有、微土 17位の覆土
3. 黒褐色土 砂質有、ローム粒(1~3mm)多量 e
4. 黒褐色土 砂質弱、ローム粒(2~5mm)極多量 f
5. 褐色土 砂質弱、ローム粒主体、微褐色土混入
6. 褐色土 砂質弱、ローム粒主体、微褐色土混入
7. 黒褐色土 砂質有、ローム主体、ローム地山のソフト化 a



## (14) 集石

南側の平坦地に10基、斜面に13基、計23基検出した。

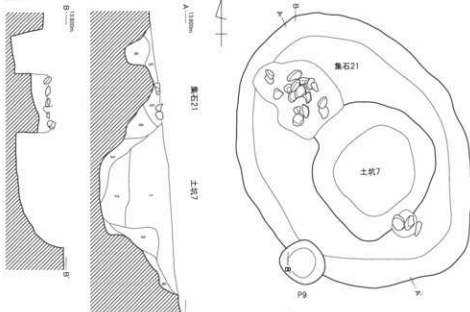
集石18は19号住居跡覆土内、集石20は17号住居跡覆土内に作られている。集石2は土坑7より古い。

第80表 神明後遺跡第28地点集石一覧表

(単位:cn/g)

No.	平面形態	土坑確認面	底面	深さ	確認範囲	分析					
						種数	重量	個数	重量	個数比	重量比
1	楕円形	125×110	45×25	16	132×103	968	56520	702	—	72.5%	—
2	楕円形	92×80	66×59	12	70×65	250	11030	144	—	57.6%	—
3	楕円形	88×80	50×45	12	86×56	216	13795	122	—	56.5%	—
4	楕円形	84×65	60×55	30	80×63	153	3770	55	—	35.9%	—
5	楕円形	110×78	25×18	18	96×72	450	45560	300	32930	66.7%	72.3%
6	楕円形	95×76	70×54	28	70×55	10	390	3	100	30.0%	25.6%
7	不明	— × —	— × —	—	115×68	94	3300	41	2040	43.6%	61.8%
8	楕円形	140×110	118×89	9	165×130	249	13030	183	9250	73.5%	71.0%
9	楕円形	124×85	100×63	15	109×52	103	3190	33	1530	32.0%	48.0%
10	楕円形	134×104	52×26	20	135×95	481	19550	196	9330	40.7%	47.7%
11	楕円形	102×47	32×25	15	65×35	98	3435	58	2105	59.2%	61.3%
12	楕円形	123×85	28×14	15	110×56	115	11555	102	10500	88.7%	90.9%
13	楕円形	115×100	88×56	9	90×75	38	2350	24	1540	63.2%	65.5%
14	楕円形	90×78	70×54	14	80×62	71	4330	56	2950	78.9%	68.1%
15	楕円形	120×124	55×43	15	100×90	118	5310	84	3820	71.2%	71.9%
16	楕円形	75×60	19×12	37	50×35	44	5490	7	470	15.9%	8.6%
17	楕円形	90×64	40×25	31	63×40	65	4760	65	4760	100.0%	100.0%
18	楕円形	98×85	82×64	13	70×70	320	19980	23	3300	7.2%	16.5%
19	楕円形	165×116	150×80	25	92×80	508	38980	497	37550	97.8%	96.3%
20	不明	— × —	— × —	16	151×122	271	21600	253	19040	93.4%	88.1%
21	楕円形	— × —	— × —	15	60×50	36	4760	29	2860	80.6%	60.1%
22	円形	130×125	98×85	36	112×110	824	36940	541	28102	65.7%	76.1%
23	楕円形	166×70	120×56	20	70×70	412	23053	302	18233	73.3%	79.1%

## 集石21



## 土坑7・集石21

1. 暗褐色土 練り有、ローム粒(1~3mm)少量、灰・微土粒(1mm)極少量、土層にのみ土器多量、灰(1~3mm)少量、炭土粒(1mm)極少量
2. 暗褐色土 練り有、ローム粒(1~3mm)多量、灰(1~3mm)少量、炭土粒(1mm)極少量
3. 褐色土 練り有、ローム粒(1mm)中多量、灰(1mm)少量、ローム塊少量
4. 褐色土 練り有、ローム粒(1mm)多量
5. 暗褐色土 練り有、ローム粒(1mm)多量、灰(1mm)中多量
6. 黄褐色土 練り有、ローム塊主体、褐色土混入地層に土が入った感じ

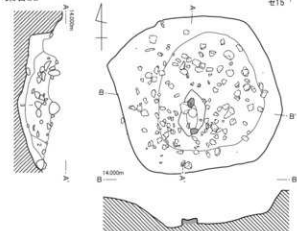
## 集石22

1. 黄褐色土 練り有、ローム粒(1~3mm)少量、微土粒(1mm)少量
2. 暗褐色土 練り有、ローム粒(1~3mm)やや多量
3. 暗褐色土 練り有、ローム粒(2~5mm)多量、ローム塊(10mm)少量

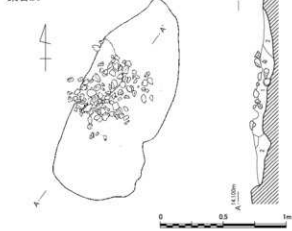
## 集石23

1. 暗褐色土 練り有、ローム粒(1~2mm)少量
2. 褐色土 練り有、ソフトローム塊多量

## 集石22



## 集石23

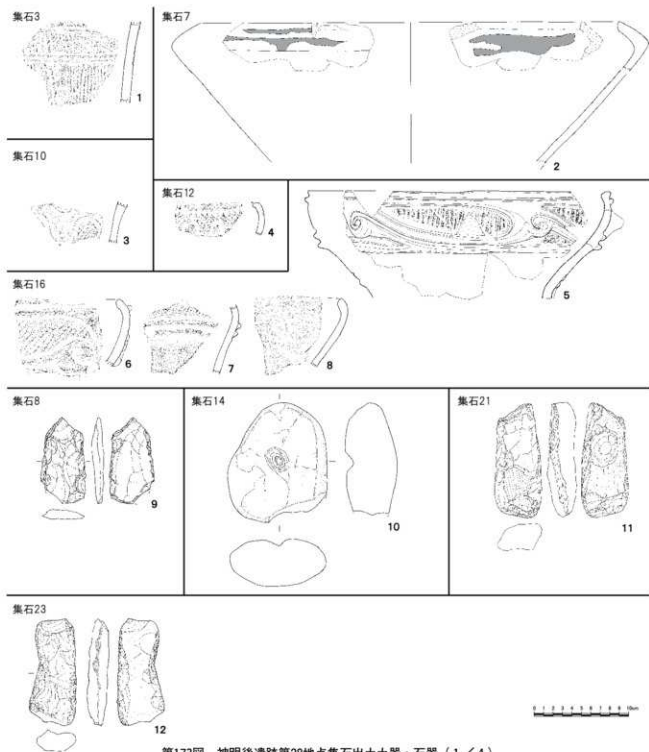


第172図 神明後遺跡第28地点集石21~23 (1/30)

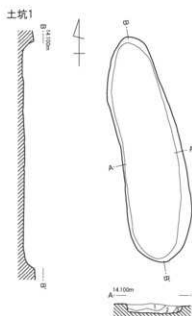
## 【集石出土土器】(第173図)

1は3号集石出土の胴上部破片で、地文摺糸文で半截竹筥による沈線・波状文と直下懸垂文を加える。2は7号集石出土の無文浅鉢で体部下を欠失するが、口縁部の内・外面に赤色塗彩がある。3は10号集石出土の胴中部片で、地文縄文を弧状に磨消し、胴部文様は上下2段で加曾利EⅣ式といえる。4は12号集石で口縁下に列点文をめぐらし、体部は地文縄文を逆U字形に磨消す加曾利EⅢ式。5～8は16号集石出土で、5は14片が接合したが計21片が同一個体である。

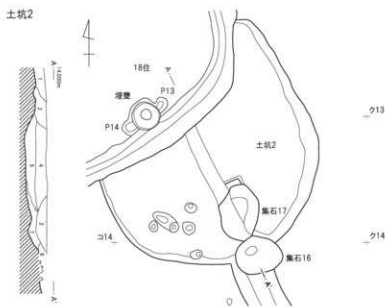
地文摺糸文で、突出した渦巻文と区画文で口縁部文様帯をつくり、頸部無文帯下の胴部は地文の上に貼付隆帯で懸垂文をつくる。6は渦巻文と区画文で口縁部文様帯をつくり地文は縄文。7は口縁文様から頸部無文帯にかかる破片で地文は縄文。8は無文口縁浅鉢で、表面の口縁の一部に彩色が残る。5～8は加曾利EⅠ新式で土坑の時期を示す。集石出土は23ヶ所あり、土器は1片出土から40片出土までであるが極細片が多く、上記以外は割愛したが、ほとんどは加曾利E式で後半が多い。



第173図 神明後遺跡第28地点集石出土土器・石器(1/4)



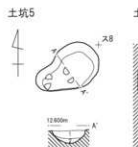
- 土坑1  
 1. 黒褐色土 砂り有、粘性有、ローム粒(1mm以下)わずか、しみ状に暗褐色土含む  
 2. 暗褐色土 砂り有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、塊土わずか、しみ状にローム土多量  
 3. 暗褐色土 砂り有、粘性有、ローム土主体、暗褐色土少量含むボソボソ



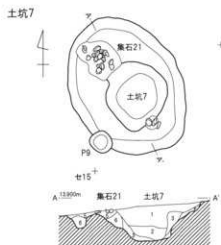
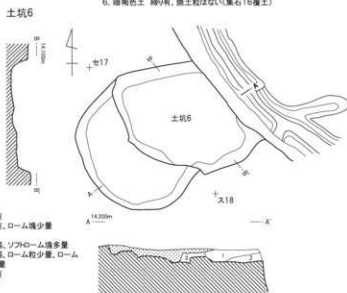
- 土坑2  
 1. 暗褐色土 ローム粒少量 18位層土  
 2. 暗褐色土 ローム粒少量、炭様少量、色調やや明い(18位層土)  
 3. 暗褐色土 砂り有、塊土粒少量(黒石17)  
 4. 暗褐色土 砂り有、塊い、ローム粒少量  
 5. 褐色土 砂り有、塊い、ロームが散状に入る、地山近くの土  
 6. 暗褐色土 砂り有、塊土粒はない(黒石16層土)



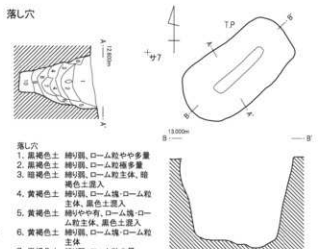
- 土坑3  
 1. 黒褐色土 砂り弱、灰色土、暗褐色土、ローム粒の混合土  
 2. 暗褐色土 砂りやや有、ローム粒と暗褐色土の混合  
 3. 褐色土 砂りやや有、ローム塊と暗褐色土の混合



- 土坑5  
 1. 暗褐色土 砂り有  
 2. 褐色土 砂り有、ローム塊少量  
 土坑6  
 1. 黒色土 砂り弱、ソフトローム塊多量  
 2. 黒褐色土 砂り弱、ローム粒少量、ローム塊少量  
 3. 褐色土 砂り有



- 土坑7・黒石21  
 1. 暗褐色土 砂り有、ローム粒(1~3mm)少量、炭・塊土粒(1mm)極少量、上層にのみ土層  
 2. 暗褐色土 砂り有、ローム粒(1~3mm)多量、炭(1~3mm)少量、塊土粒(1mm)極少量  
 3. 褐色土 砂り有、ローム粒(1mm)やや多量、炭(1mm)少量、ローム塊少量  
 4. 褐色土 砂り有、ローム粒(1mm)多量  
 5. 暗褐色土 砂り有、ローム粒(1mm)多量、炭(1mm)やや多量  
 6. 黄褐色土 砂り有、ローム塊主体、褐色土混入 地山土が入った感じ



- 落し穴  
 1. 黒褐色土 砂り弱、ローム粒やや多量  
 2. 黒褐色土 砂り弱、ローム粒多量  
 3. 暗褐色土 砂り弱、ローム粒主体、暗褐色土混入  
 4. 黄褐色土 砂り弱、ローム塊・ローム粒主体、灰色土混入  
 5. 黄褐色土 砂りやや有、ローム塊・ローム粒主体、灰色土混入  
 6. 黄褐色土 砂り弱、ローム粒主体  
 7. 黒褐色土 砂り弱、ローム粒少量  
 8. 褐色土 砂り弱、4層と同じ  
 9. 暗褐色土 砂り弱、ローム粒多量  
 10. 褐色土 砂り有、ローム粒多量

第174図 神明後遺跡第28地点土坑・落し穴 (1/60)

## (15) ビット・土坑

第81表 神明後遺跡第28地点土坑・ビット一覧表 (単位:cm)

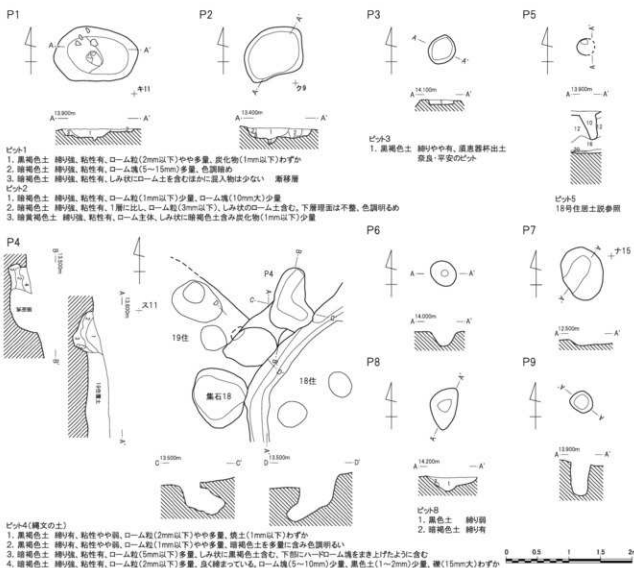
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝し穴	長方形	194×104	130×30	145	
土坑1	楕円形	364×94	347×84	19	15号住居跡より新
土坑2	半円形	400×350	385×322	34	18号住居跡-集石17より古
土坑3	楕円形	174×114	130×72	30	
土坑4	欠番	×	×		溝3に名称変更
土坑5	楕円形	106×70	86×51	35	
土坑6	不整形	254×165	206×151	29	17号住居跡より古
土坑7	円形	111×100	72×64	55	集石21より新
P1	楕円形	134×87	98×59	82	
P2	楕円形	107×88	92×68	17	
P3	円形	48×40	40×32	9	
P4	不整形	98×67	68×40	37	19号住居跡より新
P5	半載	18×-	86×-	42	
P6	円形	44×36	11×11	14	
P7	楕円形	84×64	57×28	15	
P8	楕円形	64×43	24×18	27	
P9	円形	364×32	22×22	59	

## 【土坑出土土器】(第176図)

1~11は2号土坑出土で1~3は胎土に植物繊維を含み羽状縄文をもつ縄文前期前半のもの。4は区画文をもつ。5・6は地文縄文に磨消懸垂文をもつ加曾利EⅡ式。7~9は無文口縁下に沈線をめぐらすのみで体部は全面縄文。9は口唇直下にT字形に沈線を入れ磨消す。10は波状口縁で地文の縄文を花卉状に大きく磨消す。11は口唇に列点文をめぐらせ、地文縄文施文後に花卉状に沈線を入れ磨消す。7~11は加曾利EⅢ式。

12~15は7号土坑出土。12~14は地文の縄文で、12は波状口縁で花卉状に区画し磨消す。13は蕨手の沈線間を磨消す。14は花卉状に沈線を入れ磨消す。15は地文条線で隆帯を貼付けて蛇行文をつくる。

土坑は7ありいずれも若干の破片が出土したが割愛した。これらの9割5分は加曾利E式後半である。



第175図 神明後遺跡第28地点ビット(1/60)

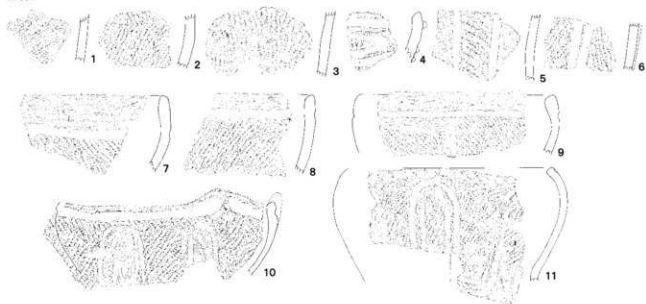
## (16) H2号住居跡

【位置】調査区東側の平坦地の際、キ-12に位置する。2m東に溝1がある。

【形状】主軸方位はN-13°-W、北側中央に竈を備  
土坑2

える。平面形態は横長方形、規模は主軸方位の南北が竈を含めて2.86m、竪穴部分で2.26m、東西3.50m、確認面からの深さ56cmである。

【竈】住居の北側中央に付く。竈の裾部は粘土を貼り



## 土坑7



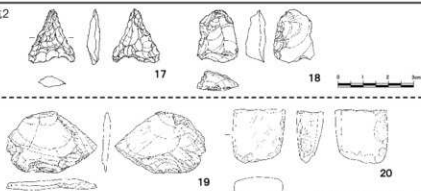
## 土坑1



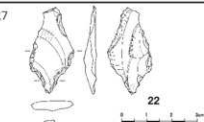
## 土坑5



## 土坑2



## 土坑7



## P3



第176図 神明後遺跡第28地点土坑出土土器・石器 (1/4)



付けている。竈奥壁から両側壁にかけて焼けて赤化する。裾部を含めた竈の規模は幅63cm、奥行き70cm、残高41cm、竈内部の幅は32cmである。

竈内側中央に土製支脚が生粘土の上に立った状態で検出した。支脚は上端径6cm、下端径9cm、高さ12cmで、上端中央が窪む。取り上げ時に崩壊してしまった。竈内で粘土を積み上げ支脚を成形し焼成した可能性もある。

竈中央手前に掘り込みがある。規模は65×60cm、深

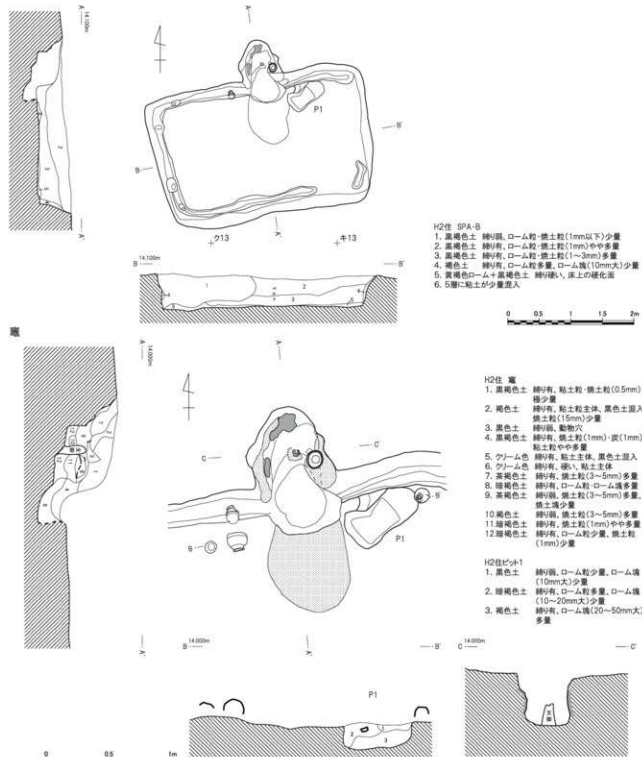
さは床面から20cmを測る。掘り込みの手前には65×65cmの範囲に粘土混じりの土が埋まっていた。

【土坑・ピット】竈右側に60×25×深さ17mのピット(P1)が有り、貯蔵穴の可能性がある。

【周溝】東側を除き、壁際を溝が巡る。周溝幅12~20cm、深さ6cm前後である。西側の周溝内に径15cm前後、深さ13~18cmの小ピットを4ヶ所検出した。

【床・壁】床面は平坦である。壁は垂直に立ち上がる。

【遺物出土状況】竈の右側上に須恵器環が上向きに2



第177図 神明後遺跡 H2号住居跡 (1/60) 竈 (1/30)

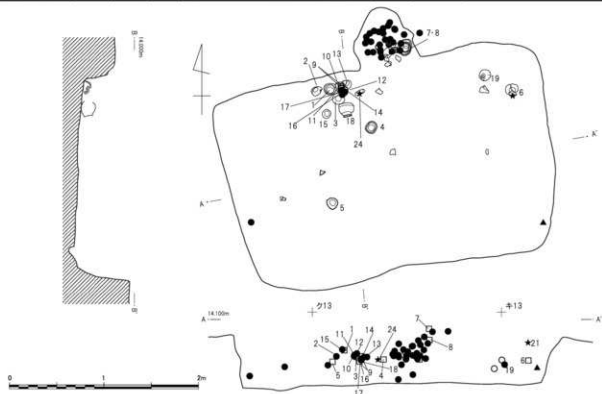
枚重なって出土した。竈内には土師器甕が破片の状態  
で出土した。竈左側の壁際に須恵器甕と、須恵器環3  
枚、土師器環8枚が伏せた状態で重なって出土した。

他に須恵器環2枚、土師器台付甕1個が出土した。

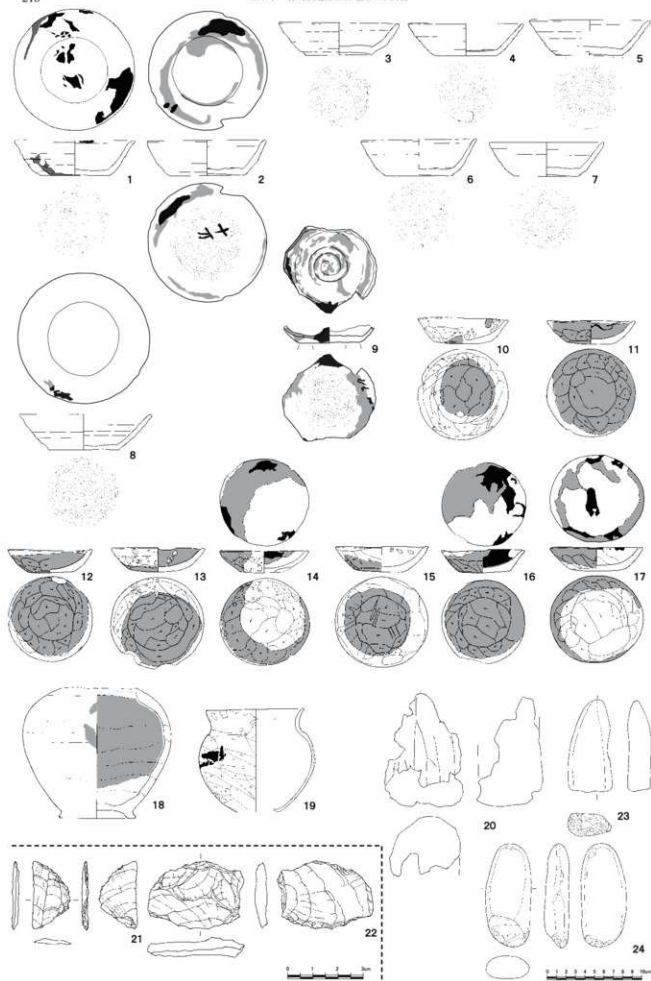
【出土遺物】(第179図) 2は底面に「十疋」の墨書  
がある。10-17の土師器環は煤が付着する。

第82表 神明後遺跡 H2号住居跡出土遺物観察表 (単位cm)

No.	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚	技法・文様/その他	産定産地	産定年代	残存・備考
1	土器・須恵器・環	12.7	7.2	3.7	轆轤成形。粘土積上後が一部残る。底部回転糸切後未調整。砂粒(～5mm)多量含む	東金子	9世紀前半	完形。内外面にタール状煤付着
2	土器・須恵器・環	12.6	7.7	3.7	轆轤成形。底部回転糸切後未調整/砂粒(～5mm)多量含む	東金子	9世紀前半	口縁部一部欠け。底面に「十疋」の墨書有。内外面に煤付着。
3	土器・須恵器・環	12.8	6.8	3.4	轆轤成形。粘土積上後が一部残る。底部回転糸切後未調整。砂粒(～5mm)多量含む	東金子	9世紀前半	完形。内面一部に煤付着
4	土器・須恵器・環	12.3	6.4	3.4	*	東金子	9世紀前半	完形。外面一部に油状の汚れ
5	土器・須恵器・環	(12.8)	7.1	3.8	轆轤成形。底部回転糸切後、周縁部蔑削り/砂粒(～3mm)多量、海面骨針含む	南比企	9世紀前半	口縁部3/4欠失
6	土器・須恵器・環	12.2	7.0	3.8	轆轤成形。底部回転糸切後未調整/砂粒(～5mm)多量含む	東金子	9世紀前半	完形。内面に若干煤付着
7	土器・須恵器・環	12.2	7.0	3.6	轆轤成形。底部回転糸切後未調整/砂粒(～2mm)多量含む	東金子	9世紀前半	完形
8	土器・須恵器・環	14.1	7.5	3.8	轆轤成形。底部回転糸切後未調整/砂粒(～5mm)多量含む	東金子	9世紀前半	完形。内面口縁一部にタール状煤付着
9	土器・須恵器・環		6.5		轆轤成形。底部回転糸切後、周縁部蔑削り/砂粒(～3mm)多量、海面骨針含む	南比企	9世紀前半	底部破片。内外面、および割れ口にタール状煤付着
10	土器・土師器・環	9.5	5.1	2.8	内面および口縁部外面横撫で、体部および底部蔑削り/赤色粒(1mm以下)多量含む			完形。底部に薄く煤付着。内面に被熱によるハジケ多数有。
11	土器・土師器・環	9.5	5.1	2.8	*			完形。内外面煤付着。内外面に被熱によるハジケ多数有。
12	土器・土師器・環	9.0	5.1	2.3	*			完形。内外面煤付着。外面一部に被熱によるハジケ有。口縁内側1ヶ所にタール状の煤付着。
13	土器・土師器・環	10.0	6.0	2.5	*			完形。内面一部、外面煤付着。内面、外面一部に被熱によるハジケ有。
14	土器・土師器・環	9.4	4.8	2.4	*			完形。内外面煤付着。被熱によるハジケ有。口縁内側3ヶ所はタール状の煤付着
15	土器・土師器・環	9.9	5.5	2.8	*			完形。底部に薄く煤付着。内面一部に被熱によるハジケ有。
16	土器・土師器・環	9.0	5.5	2.3	*			完形。内外面煤付着。口縁内側にタール状の煤付着。
17	土器・土師器・環	9.9	6.0	2.6	*			完形。内面及び外面一部煤付着。口縁内側にタール状の煤付着。
18	土器・須恵器・長頸甕		8.0	[14.0]	粘土積上後、轆轤調整。高台貼付/砂粒(～3mm)多量含む		9世紀	頸部を打欠く。内面左上面に黒色物付着。
19	土器・土師器・台付甕	10.3		[10.0]	口縁部横撫で。体部横方向のへら削り/赤色粒。砂粒(～1mm)多量含む		9世紀	脚部欠。外面半分煤付着。内面に被熱によるハジケ有。
20	土製品・支脚	6.0	9.0	[12.0]	縦方向の蔑削り/赤色粒(～5mm)多量含む			



第178図 神明後遺跡 H2号住居跡遺物出土状況図 (1/40)



第179図 神明後遺跡H2号住居出土土器・石器 (1/4、2/3)

## (17) 堀跡・溝跡

【堀跡】調査区東端で、さかい川と直交する南北方向の堀跡を32m検出した。このうち南側の9.5mを調査した。上幅3.05～3.35m、下幅0.75～1.05m、確認面からの深さ2.98m、断面形態は築研状で底は平坦である。縄文土器、石器の他には遺物は出土していない。隣地との土地境とほぼ重複するが、南側になるほど現在の土地境とはずれが生じている。

なお、堀跡覆土の土壌サンプルから堀跡の埋没時期を特定する目的で自然化学分析を行った結果、12世紀初頭より後の可能性が指摘された。(附編参照)

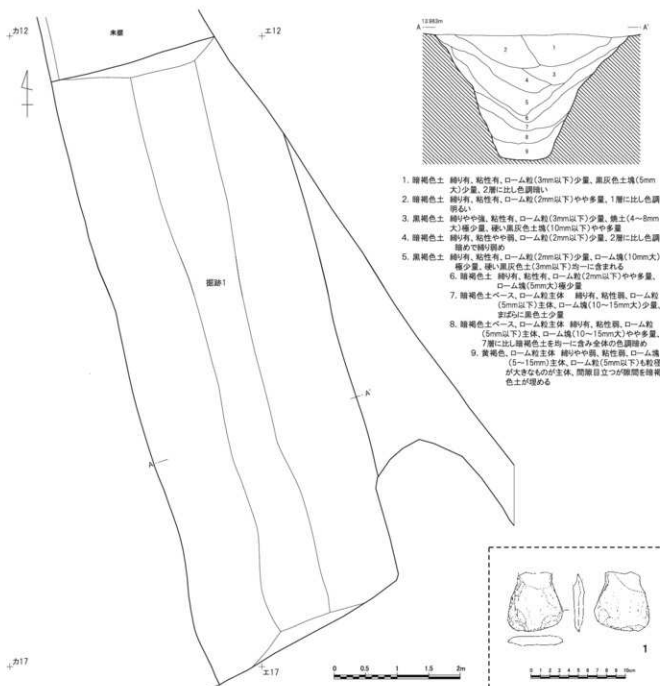
【溝1】調査区南東の平坦地で南北方向に12mに渡り検出した。縄文時代の遺構を壊して構築している。

【溝2】調査区の斜面地で斜面と平行して東西方向に19mに渡り検出した。縄文時代の遺構を壊す。

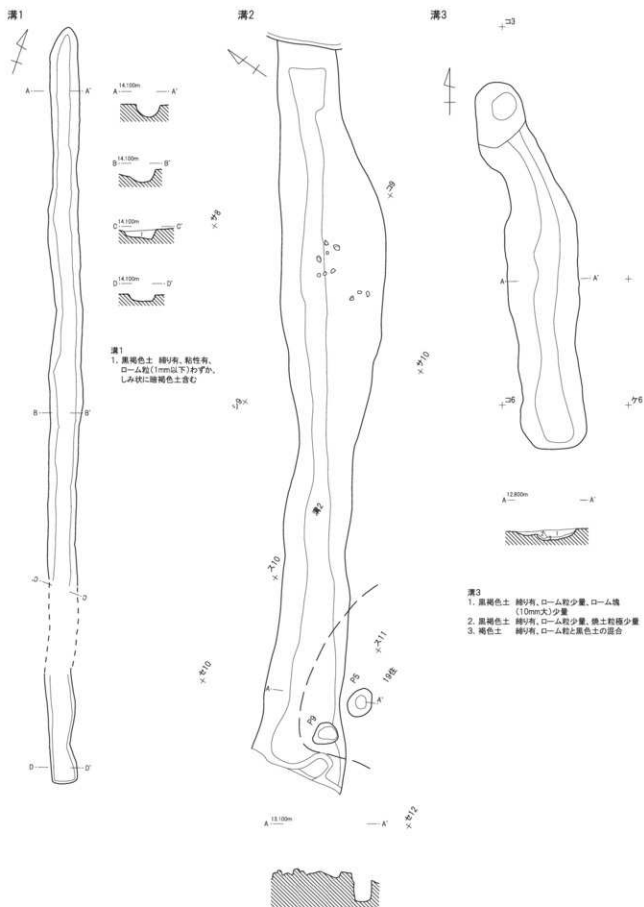
【溝3】調査区北東の斜面地で南北6mに渡り検出した。

第83表 神明後遺跡第28地点堀・溝一覧表 (単位:cm)

断面形態	確認面	底面	深さ	備考	
堀1	築研	305～335	75～105	298	南北32m以上
溝1	U字形	38～52	20～35	16	南北12m以上
溝2	皿状	90～165	30～60	37	東西18m以上
溝3	U字形	90～115	25～50	16	南北6m



第180図 神明後遺跡第28地点堀跡(1/60)出土石器(2/3)

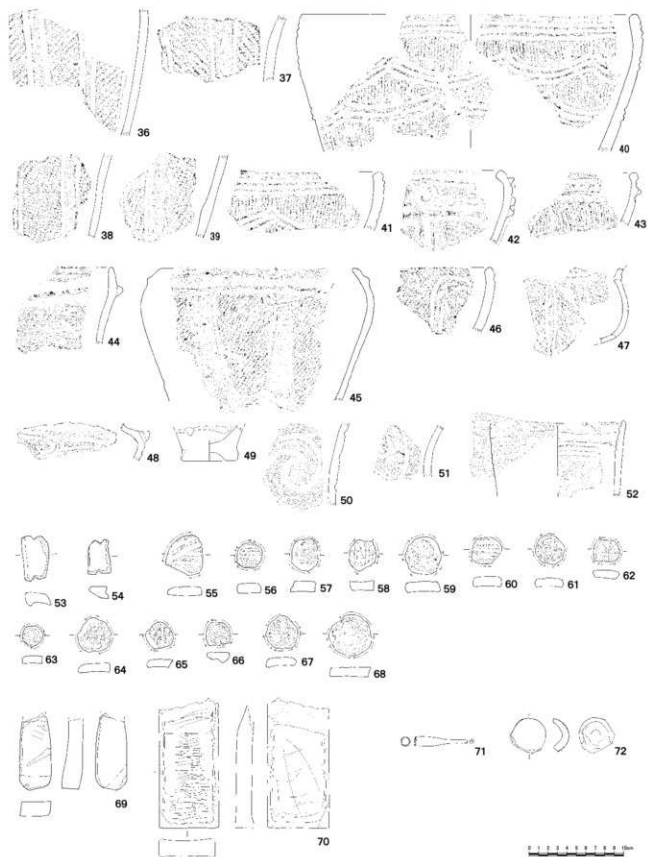


第181図 神明後遺跡第28地点溝1~3 (1/60)

0 0.5 1 1.5 2m



第182図 神明後遺跡第28地点遺構外出土土器① (1/4)



第183図 神明後遺跡第28地点遺構外出土土器②石製品・金属製品・土製品 (1/4)

## 【遺構外出土遺物】(第182~184図)

1~11は胎土に植物繊維を含み、5~は特に多い。1は口縁近くに格子状微隆起線文と沈線文をもつ野鳥式。2は赤色無文。3は大粒の縄文を押し出した口縁部。4は口縁から胴部までの3分の1を残し羽状縄文、斜行縄文をもつ。5~10は赤褐色~暗褐色を呈し、11は粗摺りである。3~11は前期前半のもの。

12は高い隆帯上を押しき、胎土に金雲母を含む。13は噴水状押し文をもち、14は押し文列で充填する。15は区画沿いに幅広押し文を入れ内部も押し引く。12~14は中期初頭と発沢式。15は勝坂Ⅱ式。

16と17は頸部無文帯をもつ地文縄文の口縁部文様帯部分。18はラッパ状無文口縁深鉢で、沈線列を地文とし隆帯の懸垂文がある。19と20は大形と中形深鉢の胴部片で地文熱糸文に隆帯を貼付けて懸垂文とする。21は地文縄文で沈線による蛇行・直下懸垂文をつける。16~21は加曾利EⅠ新式。21はこの中の新相である。

22~24は半截竹管背による半隆帯のみの土器。25は重弧文の深鉢。26は斜位沈線の口縁部。27と28は沈線による綾杉文をもつ。22~24は加曾利EⅠ式併行の山地系の土器。25は曾利Ⅲ式。

29~34は、区画文と渦巻文で口縁部文様帯をつくり胴部は地文縄文に磨消懸垂文をもつ類の代表。26~39は加曾利EⅡ式である。

40・41は地文熱糸文で3本組沈線と3本組連弧文を胴上部に2段めぐらす。EⅡ式古相に併行する連弧文。

40~44は沈線・条線を地文とする類であるが、44は縦位の波状条線のみをもつ中深鉢で、加曾利EⅢ式併行か。

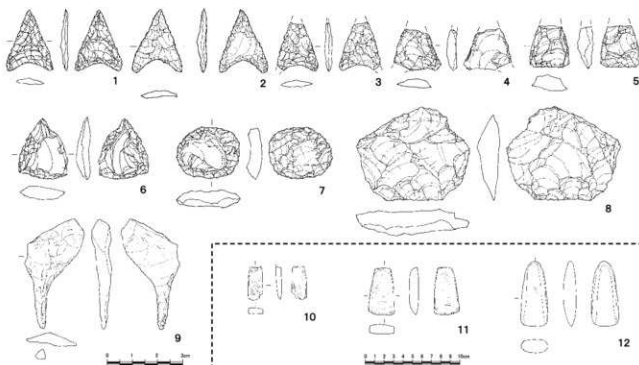
45と46は地文を逆U字状・U字状に磨消した加曾利EⅢ式で、46は口唇部にも細縄文を施文する。

47は球形刷をもつ小壺形土器で地文縄文の上に磨消懸垂文をもつことから加曾利EⅡ式。48は体上部に円孔が貫通し、口唇を欠く。体最上部の小区画に刺突を入れる異系統土器。49は深鉢の底に高台をつけたもので加曾利EⅢ・EⅣ式の台部分。

50と51は地文縄文をJ字状に残し広く磨消した胴上部の破片で、称名寺Ⅰ式といえる。52は波状口縁の小深鉢で、沈線による横帯文に区切り段差をつける。内面上部は細縄文上に沈線を4本入れた内文がある。やや黒味を帯びた精製土器であり、加曾利BⅠ式である。

53と54は土器片錘である。53は口縁部片を54は胴部片を利用する。55~68は側面調整が著しい土製円盤であるが、55~57は長片中部にくい込みがあり土錘の可能性もある。明らかに中期後半のもの、後期初頭のものもある。小形土製円板が多い特徴がある。

69は砥石、70は硯、71は煙管吸口、72は土製人形の頭部破片。



第184図 神明後遺跡第28地点遺構外出土石器(2/3、1/4)



第84表 神明後遺跡第28地点出土石器計測表 (単位cm・g)

図版	番号	遺構	種類	製品	石材	長	幅	厚	重量	注記番号
130R	23	15号住居	石器	石鏟	黒曜石	2.20	1.45	0.35	0.8	06Pz8-15E
130R	24	15号住居	石器	石鏟	ホルンフェルス	1.90	1.60	0.4	0.8	06Pz8-15E
130R	25	15号住居	石器	スクレイパー	チャート	2.40	4.70	0.80	7.3	06Pz8-15E
130R	26	15号住居	石器	打製石斧	珪質粗粒砂岩	10.8	4.55	2.2	117.4	06Pz8-15E
130R	27	15号住居	石器	打製石斧	珪質粗粒砂岩	9.4	5.45	2.0	124.4	06Pz8-15E
130R	28	15号住居	石器	打製石斧	珪質細粒砂岩	9.9	4.5	1.75	88.3	06Pz8-15E
130R	29	15号住居	石器	打製石斧	ホルンフェルス	7.7	5.4	1.5	59.6	06Pz8-15E
130R	30	15号住居	石器	打製石斧	砂岩	7.9	4.7	2.1	98.8	06Pz8-15E
130R	31	15号住居	石器	打製石斧	砂岩	10.1	5.05	1.5	81.2	06Pz8-15E
130R	32	15号住居	石器	打製石斧	緑泥石片岩	9.6	6.4	3.3	241.6	06Pz8-15E
130R	33	15号住居	石器	磨製石器	緑色凝灰岩	7.4	4.45	2.0	107.6	06Pz8-15E
130R	34	15号住居	石器	くぼみ石	緑泥石片岩	17.0	11.95	3.3	1283.1	06Pz8-15E
138R	25	17号住居	石器	石鏟	チャート	1.65	1.30	0.40	0.5	06Pz8-17E
138R	26	17号住居	石器	石鏟	チャート	1.55	1.50	0.35	0.6	06Pz8-17E
138R	27	17号住居	石器	石鏟	チャート	2.00	1.65	0.55	1.2	06Pz8-17E
138R	28	17号住居	石器	石鏟	黒曜石	2.20	1.65	0.40	0.8	06Pz8-17E
138R	29	17号住居	石器	石鏟	黒曜石	2.40	1.45	0.30	0.5	06Pz8-17E
138R	30	17号住居	石器	石鏟	黒曜石	1.35	1.15	0.25	0.2	06Pz8-17E
138R	31	17号住居	石器	石鏟	黒色頁岩	3.60	1.80	0.85	4.3	06Pz8-17E
138R	32	17号住居	石器	石鏟	チャート	3.10	2.80	1.0	1.0	06Pz8-17E
138R	33	17号住居	石器	石鏟	黒曜石	3.00	1.75	0.50	1.8	06Pz8-17E
138R	34	17号住居	石器	磨製石器	チャート	2.95	2.30	1.05	6.9	06Pz8-17E
138R	35	17号住居	石器	石核	黒曜石	2.15	2.65	1.50	4.9	06Pz8-17E
138R	36	17号住居	石器	磨製石器	チャート	2.65	2.35	0.65	3.2	06Pz8-17E
138R	37	17号住居	石器	石核	チャート	2.70	3.45	1.90	11.9	06Pz8-17E
138R	38	17号住居	石器	磨製石器	黒曜石	1.80	1.65	0.70	1.1	06Pz8-17E
138R	39	17号住居	石器	打製石斧	黒灰色細粒砂岩	9.75	4.5	1.25	75.0	06Pz8-17E
138R	40	17号住居	石器	打製石斧	中粒砂岩	9.25	4.6	1.45	75.6	06Pz8-17E
138R	41	17号住居	石器	打製石斧	砂岩	8.4	4.65	1.1	35.7	06Pz8-17E
138R	42	17号住居	石器	打製石斧	頁岩	7.65	3.9	1.35	45.0	06Pz8-17E
138R	43	17号住居	石器	スリ石 磨製石器	緑色凝灰岩	11.9	4.1	2.1	140.5	06Pz8-17E
138R	44	17号住居	石器	打製石斧	頁岩	10.4	6.05	2.9	273.8	06Pz8-17E
138R	45	17号住居	石器	打製石斧	砂岩	8.95	5.15	2.9	165.4	06Pz8-17E
138R	46	17号住居	石器	打製石斧	頁岩	7.0	5.05	2.65	89.6	06Pz8-17E
138R	47	17号住居	石器	磨製石器	緑色凝灰岩	11.06	4.45	3.2	319.7	06Pz8-17E
138R	48	17号住居	石器	石鏟	頁岩	11.3	8.2	1.5	163.4	06Pz8-17E
138R	49	17号住居	石器	打製石斧	ホルンフェルス	5.4	4.8	0.8	20.7	06Pz8-17E
138R	50	17号住居	石器	磨石	砂岩	9.4	2.75	2.2	81.7	06Pz8-17E
138R	51	17号住居	石器	磨石	頁岩	11.2	3.9	2.4	138.3	06Pz8-17E
138R	52	17号住居	石器	磨石	砂岩	11.4	5.2	3.8	328.2	06Pz8-17E
138R	53	17号住居	石器	スリ石 磨石	砂岩質ホルンフェルス	13.35	4.95	3.4	272.4	06Pz8-17E
138R	54	17号住居	石器	くぼみ石	珪質粗粒砂岩	12.0	6.75	1.9	189.9	06Pz8-17E
145R	33	18号住居	石器	石鏟	黒曜石	1.20	0.90	0.25	0.2	06Pz8-18E
145R	34	18号住居	石器	石鏟	黒曜石	1.5	0.9	0.2	0.2	06Pz8-18E
145R	35	18号住居	石器	石鏟	チャート	2.70	1.90	0.40	1.5	06Pz8-18E
145R	36	18号住居	石器	スクレイパー	黒曜石	4.25	1.60	1.05	4.0	06Pz8-18E
145R	37	18号住居	石器	スクレイパー	黒曜石	2.20	2.70	0.70	3.7	06Pz8-18E
145R	38	18号住居	石器	打斧	頁岩	5.9	2.3	0.8	14.9	06Pz8-18E
145R	39	18号住居	石器	打製石斧	剥離性のある粗粒砂岩	7.05	4.45	1.3	49.0	06Pz8-18E
145R	40	18号住居	石器	打製石斧	珪質中粒砂岩	7.75	4.55	2.15	74.0	06Pz8-18E
145R	41	18号住居	石器	打製石斧	灰色中粒砂岩	8.7	4.25	1.7	68.7	06Pz8-18E
145R	42	18号住居	石器	打製石斧	中粒砂岩	9.2	4.4	1.45	71.5	06Pz8-18E
145R	43	18号住居	石器	打製石斧	細粒砂岩と輝緑凝灰岩の互層	9.2	4.35	2.25	118.8	06Pz8-18E
145R	44	18号住居	石器	打斧	砂岩	9.6	5.4	3.2	203.2	06Pz8-18E
145R	45	18号住居	石器	打製石斧	珪質粗粒砂岩	9.1	4.4	2.0	104.6	06Pz8-18E
145R	46	18号住居	石器	打製石斧	粗粒砂岩	9.0	4.5	1.6	73.2	06Pz8-18E
145R	47	18号住居	石器	打製石斧	緑泥石片岩	10.3	5.7	1.1	107.4	06Pz8-18E
145R	48	18号住居	石器	打製石斧	珪質細粒砂岩	11.6	6.6	2.95	208.3	06Pz8-18E
145R	49	18号住居	石器	打製石斧	緑泥石片岩	8.3	3.85	1.7	85.5	06Pz8-18E
145R	50	18号住居	石器	打斧	砂岩	9.7	5.6	1.7	85.6	06Pz8-18E
145R	51	18号住居	石器	打製石斧	珪質粗粒砂岩 Hr	11.8	6.55	2.6	203.4	06Pz8-18E
145R	52	18号住居	石器	打製石斧	砂岩質ホルンフェルス	12.3	4.4	3.2	204.1	06Pz8-18E
145R	53	18号住居	石器	磨石	砂岩質ホルンフェルス	11.1	3.6	3.3	165.9	06Pz8-18E
145R	54	18号住居	石器	磨石	砂岩	12.6	5.1	2.7	277.8	06Pz8-18E
149R	17	19号住居	石器	石鏟	チャート	2.25	1.45	0.35	0.7	06Pz8-19E
149R	18	19号住居	石器	石鏟	黒曜石	1.80	1.30	0.50	0.7	06Pz8-19E
149R	19	19号住居	石器	石鏟	黒曜石	1.50	1.50	0.30	0.5	06Pz8-19E
149R	20	19号住居	石器	石鏟	チャート	2.10	2.80	0.60	3.8	06Pz8-19E
149R	21	19号住居	石器	打製石斧	頁岩	8.1	5.3	1.35	59.7	06Pz8-19E
149R	22	19号住居	石器	打製石斧	砂岩	9.6	4.0	1.15	54.6	06Pz8-19E
149R	23	19号住居	石器	打製石斧	砂岩	10.6	4.85	2.70	137.7	06Pz8-19E
149R	24	19号住居	石器	打製石斧 (石鏟形)	片岩	11.6	4.1	1.45	66.9	06Pz8-19E
149R	25	19号住居	石器	打製石斧	ホルンフェルス	8.15	5.45	2.25	99.1	06Pz8-19E
149R	26	19号住居	石器	打製石斧	砂岩	6.1	5.15	1.75	59.9	06Pz8-19E
149R	27	19号住居	石器	磨石	砂岩	11.2	5.5	2.0	165.3	06Pz8-19E
149R	28	19号住居	石器	磨石	砂岩	14.0	4.2	3.9	321.5	06Pz8-19E
152R	13	20号住居	石器	石鏟 未成品	黒曜石	1.70	1.20	0.50	0.7	06Pz8-20E
152R	14	20号住居	石器	石鏟	黒曜石	2.25	1.45	0.30	1.1	06Pz8-20E
152R	15	20号住居	石器	磨製石器	黒曜石	2.40	1.55	1.20	4.2	06Pz8-20E

図版	番号	遺構	種類	製品	石材	長	幅	厚	重量	注記番号
152	16	20号住居	石造	スクレイパー	黒色頁岩	3.10	5.10	1.10	13.5	06Pb28-20P
152	17	20号住居	石造	打製石斧	黒色頁岩	8.00	3.90	1.10	47.2	06Pb28-20P
152	18	20号住居	石造	打製石斧	中粒砂岩	7.70	4.30	1.70	70.9	06Pb28-20P
152	19	20号住居	石造	打製石斧	黒色砂岩	8.25	4.55	1.25	53.0	06Pb28-20P
152	20	20号住居	石造	打製石斧	珪質細粒砂岩	10.40	5.60	1.55	95.7	06Pb28-20P
152	21	20号住居	石造	打製打斧	緑色片岩	15.1	6.6	1.8	213.9	06Pb28-20P
152	22	20号住居	石造	打製石斧	珪質細粒砂岩	11.30	7.40	2.15	171.3	06Pb28-20P
152	23	20号住居	石造	打製石斧	砂岩	5.65	5.00	2.10	67.7	06Pb28-20P
152	24	20号住居	石造	打製石斧	砂岩	6.70	6.55	2.80	112.8	06Pb28-20P
152	25	20号住居	石造	打製石斧	ホルンフェルス	6.10	6.10	2.50	104.9	06Pb28-20P
152	26	20号住居	石造	打製石斧	ホルンフェルス	8.15	5.20	1.50	58.9	06Pb28-20P
152	27	20号住居	石造	敲石	砂岩質ホルンフェルス	12.2	4.1	2.0	143.7	06Pb28-20P
152	28	20号住居	石造	石鏡	頁岩	5.35	4.25	0.95	21.9	06Pb28-20P
152	29	20号住居	石造	石鏡	ホルンフェルス	4.90	4.85	0.65	15.6	06Pb28-20P
152	30	20号住居	石造	石鏡	ホルンフェルス	6.10	7.30	2.40	86.1	06Pb28-20P
154	8	21号住居	石造	石鏡	黒曜石	1.75	1.30	0.35	0.4	06Pb28-21P
154	9	21号住居	石造	スクレイパー	チャート	3.25	4.30	0.95	14.0	06Pb28-21P
154	10	21号住居	石造	スクレイパー	珪質ホルンフェルス	5.10	4.40	2.35	55.9	06Pb28-21P
154	11	21号住居	石造	打製石斧	頁岩	8.75	4.25	1.30	58.6	06Pb28-21P
154	12	21号住居	石造	打製石斧	砂岩	9.00	6.10	1.90	110.4	06Pb28-21P
154	13	21号住居	石造	打製石斧	ホルンフェルス	6.35	5.90	1.30	52.8	06Pb28-21P
154	14	21号住居	石造	小石製石斧	緑色硬灰岩	5.0	3.0	1.0	29.2	06Pb28-21P
152	53	22号住居	石造	石鏡	黒曜石	1.45	1.75	0.50	1.0	06Pb28-22P
152	54	22号住居	石造	石鏡	チャート 黒色チャート	3.05	2.10	0.55	2.9	06Pb28-22P
152	55	22号住居	石造	石鏡?	チャート	2.15	1.75	0.50	1.6	06Pb28-22P
152	56	22号住居	石造	打製石斧	黒色細粒砂岩	7.2	4.0	1.35	48.9	06Pb28-22P
152	57	22号住居	石造	打製石斧	灰色細粒砂岩	7.7	4.5	1.5	68.4	06Pb28-22P
152	58	22号住居	石造	打製石斧	頁岩	9.3	3.95	2.1	105.3	06Pb28-22P
152	59	22号住居	石造	打製石斧	黒色細粒砂岩	10.15	4.15	1.5	89.7	06Pb28-22P
152	60	22号住居	石造	打製石斧	黒色シルト岩	9.8	4.4	1.5	75.8	06Pb28-22P
152	61	22号住居	石造	敲石	珪砂岩	10.05	6.3	3.75	301.7	06Pb28-22P
152	62	22号住居	石造	打製石斧	黒色中粒砂岩	8.65	4.65	1.75	72.5	06Pb28-22P
152	63	22号住居	石造	打製石斧	凝灰岩質細粒砂岩	8.3	4.25	1.25	51.1	06Pb28-22P
152	64	22号住居	石造	打製石斧	粗粒砂岩	6.5	4.0	1.4	54.6	06Pb28-22P
152	65	22号住居	石造	敲石	暗灰色中粒砂岩	11.2	8.1	3.1	336.6	06Pb28-22P
152	66	22号住居	石造	磨石 くぼみ石	輝緑石	11.4	9.0	5.0	815.9	06Pb28-22P
152	67	22号住居	石造	スリ石	花崗閃緑岩	9.5	5.6	3.1	256.1	06Pb28-22P
152	68	22号住居	石造	敲石	黒一中粒砂岩	13.0	5.0	3.3	370.8	06Pb28-22P
152	69	22号住居	石造	軽石	軽石(デザート質)	4.7	3.9	2.4	10.2	06Pb28-22P
152	70	22号住居	石造	石鏡	片岩	16.8	8.4	4.7	855.0	06Pb28-22P
154	13	23号住居	石造	打製石斧	砂岩	9.1	5.4	1.5	97.5	06Pb28-23P
154	14	23号住居	石造	磨製石斧	緑色凝灰岩	8.8	4.7	2.4	168.3	06Pb28-23P
154	8	24号住居	石造	ナイフ	砂岩	3.45	1.90	0.85	3.0	06Pb28-24P
154	9	24号住居	石造	打製石斧	砂岩	8.1	3.75	1.2	38.9	06Pb28-24P
155	6	25号住居	石造	打製石斧	砂岩	8.15	5.7	1.3	60.2	06Pb28-25P
155	7	25号住居	石造	打製石斧	砂岩	9.75	5.95	2.45	151.2	06Pb28-25P
155	8	25号住居	石造	打製石斧	頁岩	9	6.6	1.15	61.6	06Pb28-25P
155	9	25号住居	石造	打製石斧	砂岩	10.85	6.0	1.9	147.6	06Pb28-25P
156	3	屋外炉	石造	石棒	凝灰岩	22.3	13.7	9.0	2980.0	06Pb28-屋外炉
156	4	屋外炉	石造	石皿(はたき有蓋鉄石)	片岩	17.5	11.8	4.3	1256.6	06Pb28-屋外炉
158	1	炉穴・風筒木	石造	石鏡	黒曜石	1.85	1.3	0.3	0.5	06Pb28-Pp 西側
158	2	炉穴・風筒木	石造	竹石	輝緑石	32.0	22.2	5.3	5200.0	06Pb28-PP 風
173	9	黒石8	石造	打製石斧	頁岩	9.20	4.25	1.35	55.0	06Pb28-8SS
173	10	黒石14	石造	打製石斧	安山岩	12.7	10.5	5.3	809.2	06Pb28-14SS
173	11	黒石21	石造	打製石斧	緑色石片岩	12.10	5.00	2.15	282.2	06Pb28-21SS
173	12	黒石29	石造	打製石斧	砂岩	11.3	5.00	2.1	157.2	06Pb28-29SS
176	16	1土庫1	石造	打製石斧	ホルンフェルス	8.40	4.45	1.70	70.7	06Pb28-10-2
176	17	1土庫2	石造	石鏡	チャート	2.15	1.85	0.50	1.4	06Pb28-20-1
176	18	1土庫2	石造	ノッチ(ブレ)	黒曜石	2.10	1.60	0.75	2.5	06Pb28-20
176	19	1土庫2	石造	スクレイパー	安山岩	6.55	9.60	1.25	59.6	06Pb28-20
176	20	1土庫2	石造	磨製石斧	緑色凝灰岩	5.75	5.5	2.3	159.1	06Pb28-20
176	21	1土庫5	石造	石鏡	黒曜石	1.35	0.95	0.30	0.3	06Pb28-50-2
176	22	1土庫7	石造	ドリル	頁岩	3.50	1.80	0.50	2.1	06Pb28-70-1
176	23	P3	石造	石鏡	黒曜石	1.5	1.0	0.2	0.3	06Pb28-P3
179	21	H2号住居	石造	ナイフ	黒曜石	2.75	1.55	0.25	0.8	06Pb28-H2住
179	22	H2号住居	石造	スクレイパー	チャート	2.75	3.80	0.80	7.7	06Pb28-H2住
179	23	H2号住居	石造	敲石	緑色凝灰岩	9.7	4.7	2.4	175.1	06Pb28-H2住
179	24	H2号住居	石造	敲石	中粒砂岩	11.0	4.8	2.6	192.2	06Pb28-H2住
180	1	堀	石造	打製石斧	ホルンフェルス	6.25	5.7	1.0	51.6	06Pb20-ホリ
184	1	試掘	石造	石鏡	チャート	2.45	1.85	0.30	0.8	06Pb28-H-7X
184	2	試掘	石造	石鏡	チャート	2.5	1.9	0.3	0.9	06Pb28-H-14X
184	3	試掘	石造	石鏡	チャート	1.95	1.65	0.30	0.8	06Pb28-H-7X
184	4	試掘	石造	石鏡	黒曜石	1.65	1.90	0.40	1.2	06Pb28-H-7X
184	5	試掘	石造	スクレイパー	黒曜石	1.65	1.60	0.65	1.7	06Pb28-ソソ15X
184	6	試掘	石造	スクレイパー	チャート	2.45	1.95	0.60	2.4	06Pb28-3トレ-G-18X-1
184	7	試掘	石造	スクレイパー	チャート	2.50	2.05	0.65	4.5	06Pb28-1トレ-A-17X-1
184	8	試掘	石造	スクレイパー	チャート	3.75	4.50	0.95	15.6	06Pb28-H-2X
184	9	試掘	石造	ドリル	ホルンフェルス	5.8	2.8	0.8	9.4	06Pb28-C-12X
184	10	遺構外	石造	磨製石斧(ノミ)	凝灰岩	3.55	1.6	0.6	7.1	06Pb28-コ16X
184	11	遺構外	石造	磨製石斧	凝灰岩	2.7	5.0	1.0	26.1	06Pb28-ケ18X
184	12	試掘	石造	磨製石斧	緑色凝灰岩	6.9	2.8	1.3	50.4	06Pb28-H8

## 第8章 東台遺跡第46地点の本調査

### I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2006年9月4日から9月7日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年9月15日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の平板測量と写真撮影を行い、同年9月28日調査を終了した。検出した遺構は縄文時代中期の住居跡2軒、集石2基、土坑1基である。

### II 遺構と遺物

#### (1) 83号住居跡

【位置】調査区の北西隅に位置する。東台遺跡縄文集落内では東端にあたり、4m東に98号住居跡がある。隣接する部分を2001年に第37地点として調査し、住居跡北側の1/3を調査している。([町内遺跡群XI]大井町教育委員会2003参照)土坑12と重複し、土坑2を埋めている。

【形状】平面形態は楕円形を呈し、規模は主軸方位の南北向で4.1m、西側端を未調査のため東西は不明だが3.1m以上。確認面から床面の深さは35cmである。

【炉】炉は住居中央北寄りに位置し、深鉢を転用した埋燗炉。径53cm、深さ18cmの円形を呈する窪みに、胴下半を打ち欠いた深鉢土器を埋設する。炉の底は被熱し硬化している。炉内堆積土に焼土粒が堆積する。炉体土器は勝坂式。

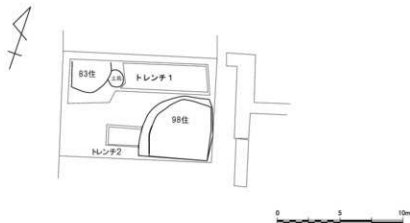
【ピット】37地点調査を含めて床面上に15基、土坑2内に1基検出した。P1・2・3・6・7・13が主柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P3間が1.45m、P3-P6間2.0m、P6-P7間1.6m、P7-P13間1.3m、P13-P1間1.95mである。

【床・壁】壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

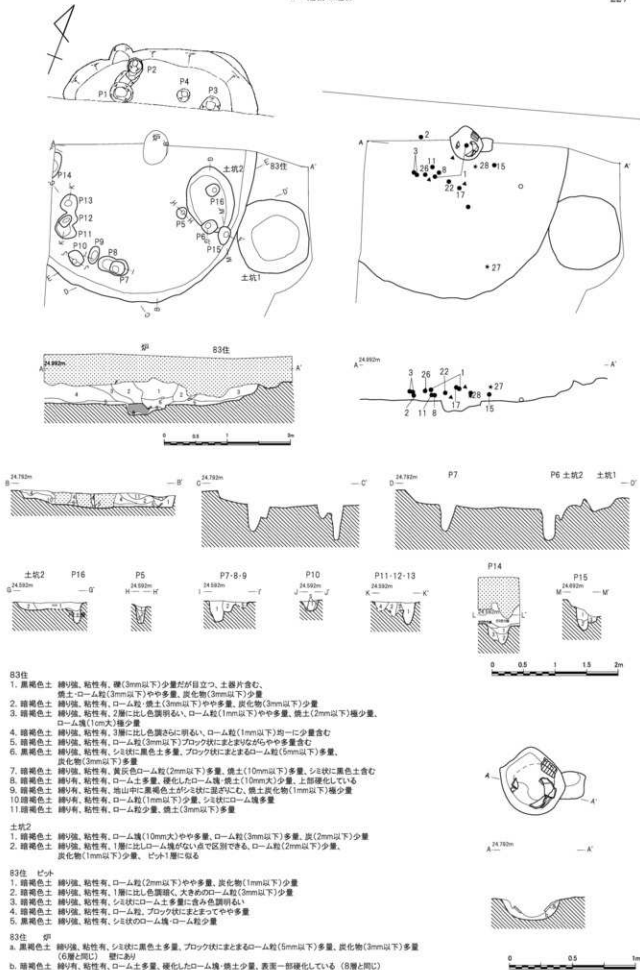
【時期】炉体土器から勝坂期。

第85表 東台遺跡83号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	36×32	19×15	46	37地点
P2	円形	30×24	10×8	46	37地点
P3	円形	27×27	14×13	49	37地点
P4	円形	21×21	9×9	37	37地点
P5	円形	18×16	8×6	37	
P6	円形	24×22	9×9	51	
P7	円形	27×25	12×10	43	P8より古
P8	円形	28×24	20×18	25	P7より新
P9	楕円形	28×16	18×8	10	P8より新
P10	楕円形	27×20	8×6	26	
P11	楕円形	36×26	23×22	19	P12より新
P12	楕円形	32×22	12×5	30	P11・13より古
P13	円形	28×26	12×10	55	P12より新
P14	半截	42×-	20×-	29	
P15	楕円形	28×18	10×8	39	
P16	円形	24×21	8×6	20	



第185図 東台遺跡第46地点遺構配置図 (1/300)



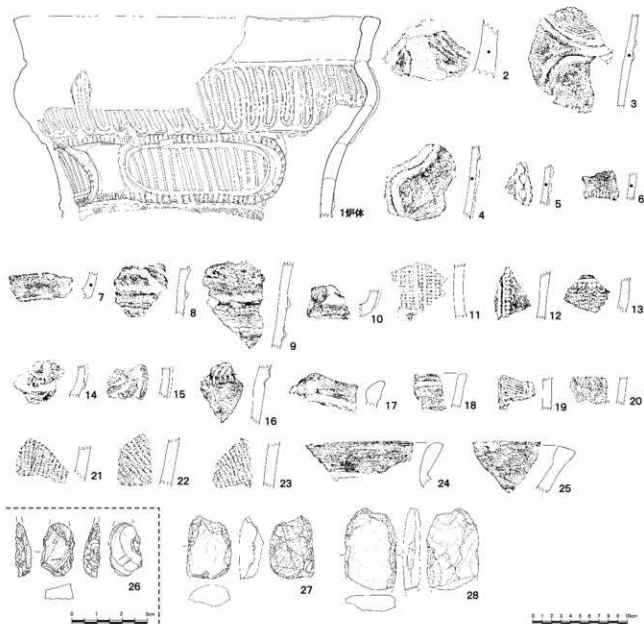
第186図 東台遺跡83号住居跡・遺物出土状況図(1/60) 炉(1/30)

## 【出土遺物】(第187図)

1は炉内に埋設された深鉢で、口縁から胴上部までの4割を遺存し、推定口径34cm・遺存部高22cmである。無文口縁下の中影みの文様帯には棒状工具による流水状連続沈線文様が縦長に密に施文される。頸部文様帯は隆帯による横長楕円区画であり、区画内には縦の沈線列が充填され、隆帯上には刻目が施される。筒形になる胴部の地文はRL縄文である。胎土には白色細砂粒と茶褐色砂粒を含む。黄褐色を呈し、野焼きによる黒斑が著しい。勝坂第4様式と言える。

2～7は胎土に金雲母を含む阿玉台式で、2は山形把手、3と4はクランク状懸垂文をもつ。5は蛇行状

隆帯をもち、6は胴下部に連続爪形文をもち、7は無文の底部。8は連続幅広押し文と三角押し文のセット。9は隆帯裾に粗い三角押し文をもつ。10は横帯楕円形区画を底部近くまで施文する。8～10は勝坂Ⅱ式である。11～13は筒形深鉢。11は横位沈線を縦位の沈線列で区画した胴部片。12と13は蓮華文と呼ばれる手法が区画沿いに描かれる。14～16は隆帯上に沈線を入れ、16は胴下部に横帯文がある。17と18は無文口縁、19は縦長区画内に沈線列をもつ筒形深鉢である。20は格子状沈線。21～23はRL縄文を地文とする。11～23は勝坂第4～第5様式。24と25は無文の口縁部であるが、24は深鉢で25は浅鉢である。



第187図 東台遺跡83号住居跡出土土器・石器(1/4、2/3)

## (2) 98号住居跡

【位置】調査区の南東隅に位置する。東台遺跡縄文集落内では東端にあたり、4 m西に83号住居跡がある。集石1と重複し、集石の方が新しい。

【形状】住居跡の北西部分を検出した。平面形態は隅丸を呈するとおもわれる。検出部分では南北4.5m、東西5.1mある。確認面から床面の深さは35cmである。

【炉】炉は上端幅120×110cmの隅丸長方形を呈し、内側の83×50cmのローム面が被熱し赤化する。さらに中央部分の径25cm、深さ36cmの円形を呈する窪みに、口縁部と胴下半を打ち欠いた深鉢土器を埋設する。赤化部分の周囲は20cmほどの幅に浅いピットが並ぶ。この外周部分で自然礫を1点検出した。おそらく本来は、石を埋設した石囲いの埋焼炉であったと思われる。

【周溝】周溝は2本検出した。上幅は20cm前後である。内側の溝1は、途切れ途切れであるが、床面からの深さ10~20cm前後と深く、断面「コ」字形。ローム主体の土で硬く踏み固められていた。

溝2は溝1の外側へ45cm広がる。床面からの深さ6~10cm前後と浅く、断面「U」字形。住居の隅で途切れている。

【ピット】床面上に10基検出した。P1~P4、P7、P8が主柱穴と思われ、P2とP7、P3とP8が重複する。P7、P8を埋めて外側のP2、P3を掘っている。柱の間隔はP1~P2間が2.6m、P2~P3間2.8m、P3~P4間1.9mである。

第86表 東台遺跡98号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	半截	87×74	42×24	84
P2	楕円形	76×48	34×30	81 P7より新。
P3	楕円形	86×80	43×36	80 P8より新。
P4	半截	55×-	20×-	81
P5	半截	45×-	22×-	19
P6	半截	40×-	26×-	30
P7	楕円形	60×35	22×18	58 P2より古。
P8	円形	52×50	28×27	77 P3より古。
P9	隅丸長方形	20×16	12×10	48
P10	不整形	30×20	8×5	25

【時期】炉体土器から加曾利EⅡ式期。

【出土遺物】(第190~193図)

1は炉内に埋設された小深鉢で口縁から胴中部までを遺存し、口径19cm・遺存部高13cmである。素口縁で口縁下に2本、胴上部に4本の沈線をめぐらす。地文

は縦位の沈線列であり、管状工具により3本組の連弧文を2段入れる。胎土には白色粗砂粒、貝粉状白色物質を多量に含み、焼成不十分で暗~黄褐色を呈す。ハジケ現象が著しい。土器はもろい。加曾利EⅡ式新相に併行する連弧文土器である。

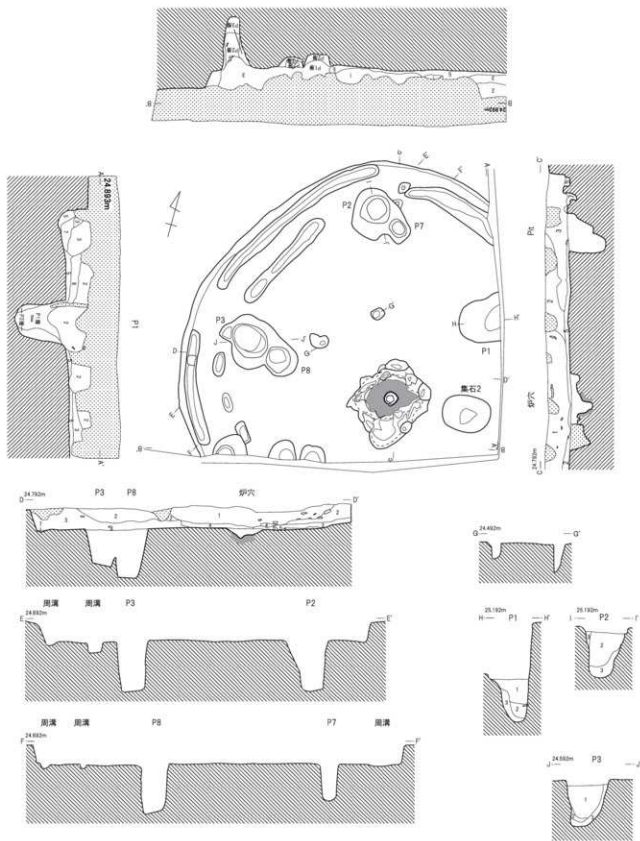
2は口縁から胴下部までを遺存する深鉢で、口径31cm・遺存部高25cmである。口唇直下と頸部に2本組み沈線をめぐらせ、体部の地文は櫛状工具による条線文で沈線による連弧文を口縁部と胴上部に配し、沈線の端部を櫛手状に内湾突出する。加曾利EⅡ式新相併行。

3は口縁から胴下部までの6割を遺存する深鉢で、口縁部の地文はラフな刺突文群で、胴部はラフな縦位沈線群である。口縁部文線帯は、隆帯を半円形に貼付けて半円形区画8をつくる。極めてラフに作られた加曾利EⅡ式新相併行の曾利系土器。

4は16片が複雑に接合する深鉢で推定口径33cm・現存高30cmである。半截管状工具による縦位の沈線列を地文とし、口縁直下と胴中部に複数の列点文をめぐらし、各々その下方に3本組みの連弧文を入れ、その下方は連弧から楕円化した沈線を配する。連弧文の新相。

5は40%を残す深鉢で、地文は細い縦位の条線が波打つ。口縁と頸部に千鳥状刺突文をめぐらす。波頭部に渦巻文、口縁と胴部の文線帯は不定形の弧状沈線を配する。加曾利EⅢ式併行の異系統土器

6は体部の5割と口縁の1片が接合する、ラフなRL縄文を地文とする深鉢で、口縁に2列の列点文をめぐらし、胴部には2本組のラフな沈線で直下懸垂文を6単位入れる。加曾利EⅡ式の新相である。7~10は沈線列を地文とする類で、7は口唇上面から口縁に斜位沈線列、頸部には2列の蛇状文をめぐらし、ここから胴部に蛇行懸垂文を貼り付ける。8は7と同巧の斜位沈線列を持つ浅鉢の口縁部。8は口縁から頸部の区画沈線までの破片で波頭部から蛇行文を貼り付ける。9は斜位沈線列をもつ大深鉢で広い口唇上面に及ぶ。10は口縁直下を隆帯で半円形に区画するほか区画頂から3本の沈線を垂下させその間を磨く。胴部は斜位の列状沈線を加える。11は素口縁深鉢で口縁直下に2本の沈線をめぐらす他は櫛状工具による地文の条線のみ。7~9は曾利Ⅲ式で、10と11は曾利Ⅳ式である。12と



## 98号住居 土層

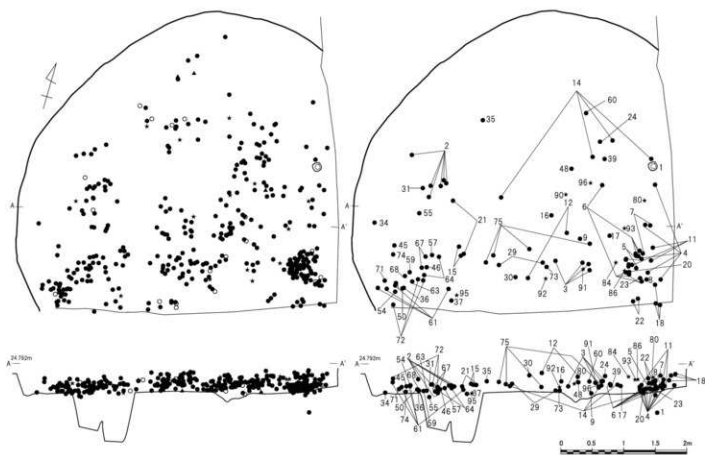
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・焼土・炭化物(3mm以下)少量、遺物多量に含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色味強い、ローム粒(2mm以下)少量、焼土・炭化物(3mm以下)極少量
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)中や多量、ベース土も2層より色調明るい、焼土・炭化物(3mm以下)極少量、シシ紋にローム土が混ざり(AS区間土物に多い)
4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)中や多量、シシ紋にローム土が混ざる
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、硬い、面状に黒褐色土を含む、ローム塊多量
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・粒様大サイズの焼土(5mm以下)多量、P1に続く
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シシ紋にローム塊多量
8. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量(2層に比し少量)、2-3層に比色調暗い

## 98号住居 ビット

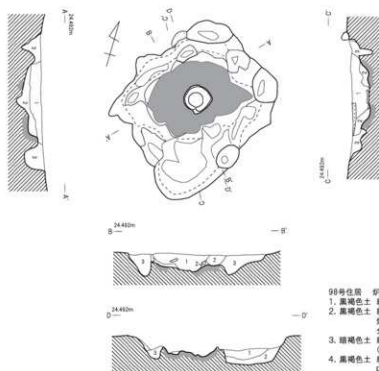
1. 暗褐色土 粘り有、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、ローム塊(20mm以下)少量
2. 暗褐色土 粘り有、粘性有、ローム土中や中多量含む1層より色調明るい、ローム塊(10mm大)極少量、ローム粒(5mm以下)中や多量
3. 暗褐色土 粘り有、粘性有、ベースにシシ紋にローム土を多量含む色調明るい、ローム塊(30mm以下)中や多量

第188図 東台遺跡98号住居跡(1/60)

0 0.5 1 1.5 2m



炉



98号住居 炉

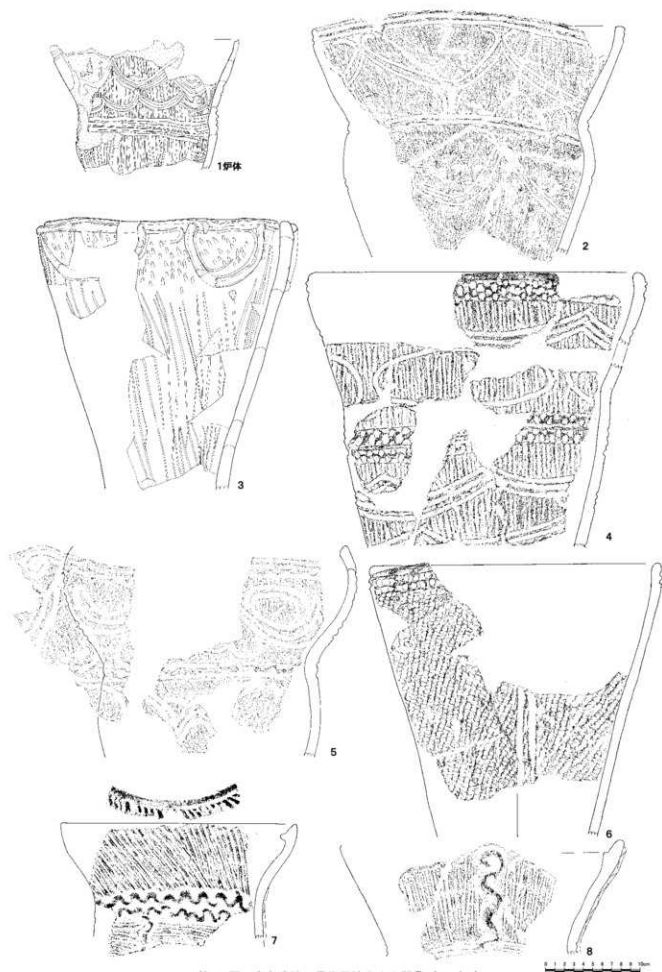
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量  
 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、  
 焼土(5mm以下)多量、

全体として赤褐色  
 粘り強、粘性有、ローム粒((5mm以下))やや多量  
 (焼成面裏の堆積(むしろはしの抜き取穴))

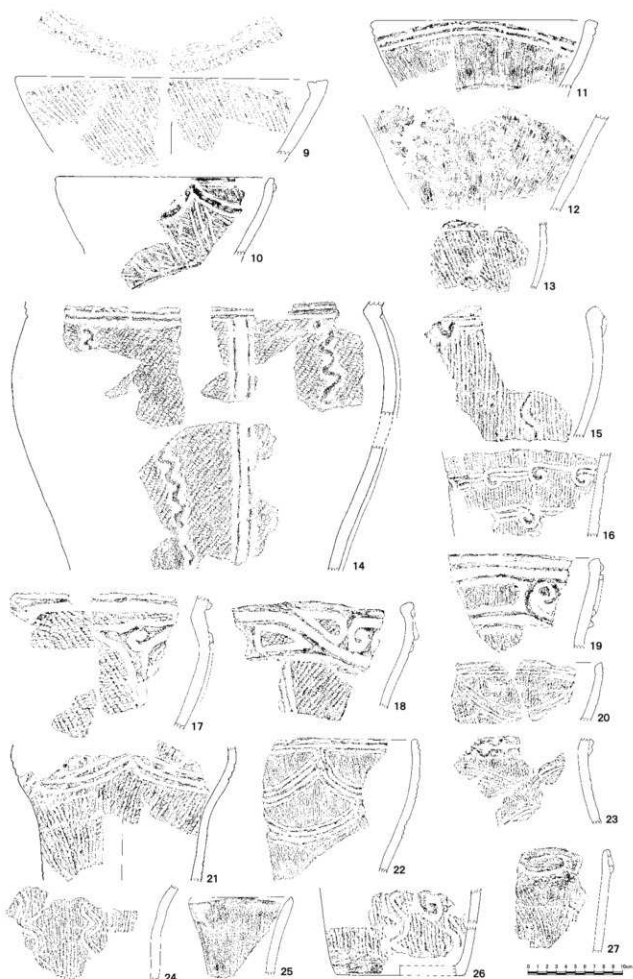
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、焼土(最大15mm、5mm以下)やや多量、  
 ローム粒(5mm以下)少量

第189図 東台遺跡98号住居跡遺物出土状況図(1/60) 炉(1/30)





第190図 東台遺跡98号住居跡出土土器①(1/4)



第191図 東台遺跡98号住居跡出土土器② (1/4)